



Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストレーション アップグレード ガイド

Release 5.4

Published July 28, 2006



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP, CCVP, the Cisco Square Bridge logo, Follow Me Browsing, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0601R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストレーション アップグレード ガイド

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	ix
目的	x
対象読者	x
表記法	xi
マニュアルの表記法	xii
Cisco Unified MeetingPlace マニュアル	xii
技術情報の入手方法	xiii
Cisco.com	xiii
Product Documentation DVD (英語版)	xiii
マニュアルの発注方法 (英語版)	xiii
シスコシステムズマニュアルセンター	xiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xv
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xv
テクニカル サポート	xvi
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xvi
Japan TAC Web サイト	xvi
サービス リクエストの発行	xvii
サービス リクエストのシビラティの定義	xvii
その他の資料および情報の入手方法	xviii

CHAPTER 1

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の概要	1-1
Cisco Unified MeetingPlace について	1-1
Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing について	1-2
Web Conferencing コンポーネントの概要	1-2
Web Conferencing の利点	1-3
共通のエンドポイント	1-3
サーバベースの会議	1-4
向上した信頼性	1-4
ネットワーク セキュリティ	1-4
Cisco MeetingPlace Agent Service の概要	1-4
ユーザが Web Conferencing に接続する仕組み	1-5

Web Conferencing が要求を処理する仕組み	1-6
使用条件	1-7
設定の制約事項	1-7
サードパーティ ソフトウェアおよびセキュリティ アップデートの使用に関するシスコのポリシー	1-7
シングル サインオン ソフトウェア統合の条件	1-7
シングル サインオン ソフトウェア統合のサポート条件	1-8
新機能および拡張機能の情報	1-9

CHAPTER 2

Web Conferencing のインストール	2-1
Web Conferencing のインストールについて	2-2
SQL Server の統合について	2-2
MSDE データベース サイズ	2-2
MSDE データベースのスケーラビリティ	2-2
SQL Server インストールのオプションについて	2-3
Sun Java Runtime Environment について	2-4
インストール前の作業 : Web Conferencing	2-5
Cisco Unified MeetingPlace Audio Server のインストール	2-5
リモート サーバへの SQL Server のインストール	2-5
最小権限 SQL アカウントの作成	2-5
インストールおよび処理続行権限の割り当て	2-6
サーバおよびデータベース役割の割り当て	2-7
Web Conferencing インストール値の収集	2-8
インストール作業 : Web Conferencing	2-10
Cisco MCS Server へのオペレーティング システムのインストール	2-10
Web Conferencing のインストール	2-11
Web Conferencing インストール システムのテスト	2-14
Web Conferencing サーバの定義	2-14
HTTP 接続での Web サーバのテスト	2-15
HTTPS 接続での Web サーバのテスト	2-15
会議コンソールの接続テスト	2-16

CHAPTER 3

Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール	3-1
Segmented Meeting Access について	3-2
SMA-1S 構成について	3-2
SMA-2S 構成について	3-3
SSL およびセグメント化された DNS を使用した SMA-2S 構成について	3-4
SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール	3-5

Web サーバに関する基本情報の収集	3-5
SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール	3-6
SMA-2S 構成での Web Conferencing のインストール	3-7
内部 Web サーバおよび外部 Web サーバに関する基本情報の収集	3-7
内部サーバへの Web Conferencing のインストール	3-8
内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー	3-9
外部サーバへの Web Conferencing のインストール	3-10

CHAPTER 4

ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール	4-1
ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて	4-2
ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールの制約事項	4-2
Web Conferencing のロード バランシングと標準の Web サーバのロード バランシング	4-2
Web Conferencing のクラスタ	4-3
Web Conferencing でのロード バランシングの動作	4-5
Web Conferencing ロード バランシングのアルゴリズム	4-6
堅固な Cisco Unified MeetingPlace システムのための推奨事項	4-7
ビデオ対応システムのロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて	4-8
ビデオ対応システムにおけるロード バランシングのデフォルトの動作	4-8
Segmented Meeting Access 展開でのビデオ会議の考慮事項	4-8
SQL Server の考慮事項	4-9
エンドユーザの考慮事項	4-9
インストール前の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール	4-10
内部クラスタの準備	4-10
外部クラスタの準備	4-11
共通格納場所の作成	4-12
インストールの作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing	4-13
最初の内部 Web サーバのインストール	4-13
最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定	4-14
追加の内部 Web サーバのインストール	4-15
内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー	4-18
最初の外部 Web サーバのインストール	4-18
最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定	4-20
追加の外部 Web サーバのインストール	4-21
外部会議のリダイレクションの設定	4-24
インストール後の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing	4-26

アドホック ビデオ会議の設定	4-26
サーバにおける Web 会議負荷の表示	4-26
ロード バランシングの無効化	4-27

CHAPTER 5

Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレード	5-1
Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの制約事項	5-2
Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの前に	5-3
Release 5.4 でのユーザ認証方法	5-3
Release 5.4 でのロード バランシング	5-3
アップグレード前のバックアップ	5-4
MPWEB データベースおよび MPWEB-Slave データベースのバックアップ	5-4
重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ	5-5
Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ	5-5
Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード	5-6
Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備	5-6
スタンドアロン Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード	5-7
スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へのアップグレード	5-8
同一データベースを共有する Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード	5-9
Web Conferencing、SQL Server、または MSDE ソフトウェアのアンインストール	5-11
Web Conferencing ソフトウェアのアンインストール	5-11
SQL Server または MSDE ソフトウェアの削除	5-11

CHAPTER 6

Web Conferencing インストールのトラブルシューティング	6-1
インストールに関する問題	6-2
最初の作業	6-2
Cisco MCS のオペレーティング システム バージョンが要件を満たすことの確認	6-2
追加のサポートを受ける方法	6-3
サーバ接続に関する問題	6-4
HTTP 接続に関する問題の解決	6-4
HTTPS 接続に関する問題の解決	6-4

APPENDIX A

Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration のインストールまたはアップグレード	A-1
Jabber Integration インストーラについて	A-2

コマンドライン インストーラを使用した Jabber Integration のインストール	A-2
X-Windows GUI インストーラを使用した Jabber Integration のインストール	A-3
Jabber Integration の設定	A-3
Jabber Integration のアップグレードまたは再インストール	A-4
Jabber Integration のアンインストール	A-5



このマニュアルについて

この章は、次の項で構成されています。

- [目的 \(P. x\)](#)
- [対象読者 \(P. x\)](#)
- [表記法 \(P. xi\)](#)
- [マニュアルの表記法 \(P. xii\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace マニュアル \(P. xii\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P. xiii\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P. xv\)](#)
- [テクニカル サポート \(P. xvi\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P. xviii\)](#)

目的

このマニュアルでは、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 5.4. のインストール方法およびアップグレード方法について説明します。このマニュアルでは、Cisco Unified MeetingPlace Jabber integration のインストール手順およびアップグレード手順も説明します。

このマニュアルでは、Web Conferencing Release 5.4 の設定方法および管理方法については説明しません。Web Conferencing と同じサーバで稼働するその他の Cisco Unified MeetingPlace アプリケーションのインストール方法および使用方法についても説明しません。

対象読者

このマニュアルは、Cisco Unified MeetingPlace のシステム管理者を対象としています。次のようなシステム管理者を前提としています。

- 音声とデータの用語および概念について十分に理解している。
- Cisco Unified MeetingPlace およびネットワーキングの概念について理解し、また Microsoft Windows ソフトウェアをベースとした Web サーバについて理解している。

また、システム管理者は Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールした後で、次の作業も担当します。

- Windows Media Server といったオプションのオーディオツールなど、現状では Web Conferencing から使用できないサードパーティ製アプリケーションのインストールと設定



(注) サードパーティ製ソフトウェアのインストールは、[P.1-7](#) の「[サードパーティ ソフトウェア およびセキュリティ アップデートの使用に関するシスコのポリシー](#)」を順守するものとします。

- 企業の Web マスターやネットワーク管理者などの関係者との連携作業
- 継続的なメンテナンスとトラブルシューティング
- ストレージ要件と消去要件の計画

表記法

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の以前のリリースは、「MeetingPlace サーバ」または「MeetingServer と呼ばれました。このマニュアルでは、「Cisco Unified MeetingPlace Audio Server」および「Audio Server」は、以前のリリースおよび現在のリリースすべてを参照します。

表 1 は、Cisco Unified MeetingPlace のマニュアルで使用される用語について説明しています。

表 1 製品名の表記法

用語	定義	このマニュアルでの表記
Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバ	Cisco Unified MeetingPlace 8106 および Cisco Unified MeetingPlace 8112 サーバを含む。	Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ
Cisco Unified MeetingPlace 8106 サーバ	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server ソフトウェアが動作するハードウェア。	Cisco Unified MeetingPlace 8106
Cisco Unified MeetingPlace 8112 サーバ	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server ソフトウェアが動作するハードウェア (このサーバは、Releases 5.2 以前では M3 と呼ばれていました)。	Cisco Unified MeetingPlace 8112
Cisco Unified MeetingPlace Audio Server	Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバ上で動作するソフトウェアです。	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server
Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server が動作する Cisco Unified MeetingPlace 8106 または Cisco Unified MeetingPlace 8112 です。	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム または Audio Server システム
Cisco Unified MeetingPlace MeetingNotes	ユーザが会議を録音し、また会議の記録を聞く Cisco Unified MeetingPlace Audio Server の機能。	MeetingNotes
Cisco Unified MeetingPlace MeetingTime	システム管理者が Cisco Unified MeetingPlace Audio Server にアクセスし設定できる Windows デスクトップソフトウェア。	MeetingTime
Cisco MCS Unified CallManager Appliance	Cisco Unified MeetingPlace アプリケーションがインストールされたハードウェア。	Cisco MCS Cisco mcs
Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバ	Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がインストールされた Cisco MCS。	Web server このマニュアルの「Web サーバ」に関するすべての参照資料は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバを参照します。

マニュアルの表記法

表 2 Cisco Unified MeetingPlace マニュアルの表記法

表記法	説明
太字	次の用途に使用 <ul style="list-style-type: none"> 表示されるとおりに入力する必要があるコマンド キーおよびボタン名 ユーザが入力する情報
イタリック体のテキスト	ユーザが値を指定する引数に使用されます。
[] (角カッコ)	省略可能な要素に使用されます。
Courier フォントで示されるテキスト	画面に表示される情報に使用されます。
^ (キャレット)	Ctrl キーの使用を示すために使用されます(たとえば、^D は、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します)。
< > (山カッコ)	パスワードのように出力されない文字に使用されます。

Cisco Unified MeetingPlace のマニュアルは、次の表記法もまた使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

Cisco Unified MeetingPlace マニュアル

Cisco.com の Cisco Unified MeetingPlace マニュアルの説明および場所については、『*Documentation Guide for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。マニュアルは、Cisco Unified MeetingPlace に付属し、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_documentation_roadmaps_list.html

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

最新の Cisco のマニュアルを入手するには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

シスコの Web サイトの各国語版には、次の URL からアクセスしてください。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc_mp.shtml

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスできます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法 (英語版)

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供していません。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。PSIRT RSS フィードにアクセスする方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合のみ: security-alert@cisco.com (英語のみ)

緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。

- 緊急でない場合: psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品 (GnuPG など) を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に前述のメールアドレスまたは電話番号で PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、**show** コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコの最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者とは共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified MeetingPlace について \(P.1-1\)](#)
- [Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing について \(P.1-2\)](#)
- [使用条件 \(P.1-7\)](#)
- [新機能および拡張機能の情報 \(P.1-9\)](#)

Cisco Unified MeetingPlace について

Cisco Unified MeetingPlace は、次の機能を持つリッチメディア会議ソリューションです。

- 音声、Web、およびビデオによる会議機能
- 集中アクセス
- リアルタイム コラボレーション
- 組織の既存のテレフォニーまたは IP ベースのインフラストラクチャを使用する統合ネットワーク セキュリティ

Cisco Unified MeetingPlace の詳細については、『*Cisco Unified MeetingPlace インストレーション プランニングガイド*』を参照してください。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing には、組織のイントラネットおよびエクストラネットに対するリアルタイム コラボレーション機能が用意されており、Cisco Unified MeetingPlace と Web サーバを統合することによってユーザがブラウザ ベースのインターフェイスを使用できるようになります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、Windows、Mac、および UNIX ユーザは、会議のスケジュールリングおよび会議への参加、会議資料のアクセス、および共通の Web ブラウザ (Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator、および Apple Safari など) からのドキュメントのコラボレーションができます。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

この項では、次の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の概念について説明します。

- [Web Conferencing コンポーネントの概要 \(P.1-2\)](#)
- [Web Conferencing の利点 \(P.1-3\)](#)
- [Cisco MeetingPlace Agent Service の概要 \(P.1-4\)](#)

Web Conferencing コンポーネントの概要

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、次に示すようなテクノロジーの組み合わせを使用して実装されます。

- HyperText Markup Language (HTML; ハイパーテキスト マークアップ言語)
- JavaScript
- Java アプレット
- Internet Server Application Program Interface (ISAPI)
- Windows サービス
- ASP.NET

表 1-1 で Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンポーネントについて説明します。このコンポーネントは Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムと Cisco IPVC Multipoint Control Unit (MCU) とともに動作して、ユーザの要求を処理し、機能を提供します。

表 1-1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンポーネント

コンポーネント	説明
Cisco MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)	Web サーバと Audio Server システムとの間の一定の接続を維持します。プライオリティ = Normal (8)。 詳細については、 P.1-4 の「Cisco MeetingPlace Agent Service の概要」 を参照してください。
Cisco MeetingPlace 音声サービス	Cisco Unified MeetingPlace 音声 (.mpv) ファイルを変換します。プライオリティ = Normal (8)。
Cisco MeetingPlace Conferencing Gateway (会議ゲートウェイ)	Web 会議機能を提供する補助サービス。プライオリティ = High (13)。
Cisco MeetingPlace Conferencing GCC	Web 会議機能を提供する補助サービス。プライオリティ = Normal (8)。
Cisco MeetingPlace Conferencing MCS	Web 会議機能を提供する補助サービス。プライオリティ = Normal (8)。

表 1-1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
Cisco MeetingPlace Conversion Agent (変換エージェント)	SQL Server データベースをポーリングして Microsoft PowerPoint ファイルをすべて受信し、それをプレゼンテーション スライドに変換します。プライオリティ = Normal (8)
Cisco MeetingPlace Replication Service(複製サービス)	ローカル Web サーバ データベースと Audio Server システムのデータベースを同期化します。プライオリティ = Low (4)
Cisco MeetingPlace Video Service (ビデオサービス)(オプション)	Cisco Unified MeetingPlace Video Administration、Audio Server システム、および Web サーバと通信して、ビデオ会議統合を提供します。
Cisco MeetingPlace Web Conferencing	プライオリティ = Normal (8)

これらのサービスはすべて、Cisco MeetingPlace Web Conferencing Service というマスター サービスによって制御されます。

Web 会議に参加するエンドユーザは、会議コンソールまたは T.120 アプリケーション (NetMeeting や SunForum など) で、ドキュメントを表示およびコラボレーションします。

Web Conferencing の利点

統合型のリッチメディア会議ソリューションの一部である Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing には、次の 4 つの主要な利点があります。これらについては次の項で説明します。

- 共通のエンドポイント (P.1-3)
- サーバベースの会議 (P.1-4)
- 向上した信頼性 (P.1-4)
- ネットワーク セキュリティ (P.1-4)

共通のエンドポイント

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing には、会議コンソールという Java ベースのエンドポイントが含まれています。会議コンソールを使用すると、Cisco Unified MeetingPlace Web 会議に簡単に参加できます。会議コンソールは、ユーザが会議に参加するとすぐにユーザの Web ブラウザに自動的にロードされます。ユーザは、会議コンソールを使用して、共有ドキュメントをホストおよびコラボレーションできます。また、ユーザは、T.120 エンドポイント (多くの Microsoft 製品に組み込まれている Microsoft NetMeeting など) を使用して参加することもできます。

このような共通のエンドポイントを使用すると、会議参加者は、ホストが共有しているドキュメントをすべて表示できます。この場合、アプリケーションが会議参加者の PC にインストールされているかどうかは関係ありません。たとえば、ホストが Excel スプレッドシートを共有している場合は、すべての参加者が共有スプレッドシートを表示できます。ホストが共有ドキュメントのコラボレーションを有効にしている場合は、すべての参加者が共有アプリケーションを制御し、そのコンテンツを変更することができます。この場合、参加者が Excel をインストールしているかどうかは関係ありません。

サーバベースの会議

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、サーバベースの会議を利用しています。サーバベースの会議では、各ユーザが Web サーバに直接接続されます。Web 会議にアクセスする場合、ユーザは、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ホーム ページでユーザ ID、ユーザパスワード、および会議 ID を使用してサインインするか、または会議通知にある参加リンクをクリックします。どちらの操作でも、会議コンソールが起動され、ユーザが会議に接続されます。サーバベースの会議であるため、ユーザは、接続するにあたって他の PC の IP アドレスを知る必要はありません。

向上した信頼性

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、会議のスケジュールリングや会議への参加を容易に実行できるだけでなく、次の理由により会議の信頼性も向上します。

- 個々のユーザのシステムが異常終了した場合でも、Web サーバは継続して会議をホストできる。
- 一般に、Web サーバは強力なシステムであるため、ユーザの PC よりも大量のトランザクションをサポートできる。
- 予備電源を備えたサーバールームに Web サーバを配置できる。
- クラスタ内に複数の Web サーバを展開することで、Web Conferencing のロード バランシングと冗長性を実現できる。ロード バランシングの詳細については、「[ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール](#)」の章を参照してください。

ネットワーク セキュリティ

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、次の理由により、組織の外にいるユーザと Web 会議を開催する場合のネットワーク セキュリティが強化されています。

- Web サーバは接続の中心点となるため、システム管理者は、組織にあるすべてのデスクトップに対してではなく、1 つのサーバに対して着信ネットワーク アクセスを提供するだけで済みます。
- Web Conferencing を参加専用機能付きで外部 Web サーバにインストールし、Demilitarized Zone (DMZ; 非武装地帯) などの公的なアクセスが可能なネットワークに展開することができます。
- Web Conferencing は Secure Socket Layer (SSL) をサポートしています。このため、Web サーバは、暗号化されたデータをネットワーク上で送受信できます。

潜在的なセキュリティ ホールを埋める方法として、Microsoft Lockdown Utility を使用して Microsoft Web サーバをロックダウンすることが一般的になりつつあります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing で使用するオペレーティング システムである Cisco MCS OS 2000.2.6 (SR 4) 以降は、すでにロックダウンされています。Cisco MCS サーバ以外の従来のサーバを使用している場合は、最新の Cisco MCS OS のリリース ノートまたは readme ファイルを参照して、サポートされているセキュリティ設定を確認してください。

Cisco MeetingPlace Agent Service の概要

Cisco MeetingPlace Agent Service は、Web サーバと Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムとの間で一定の接続を維持します。Cisco Unified MeetingPlace Video Integration がインストールされている場合、Agent Service は、Audio Server システムと Video Service との間の通信チャネルとしても機能します。

Agent Service は、ユーザによって呼び出される次のようなトランザクションをすべて処理します。

- 会議のスケジュールと会議への参加

- プロファイル情報の管理
- ユーザが招待されている会議のリストの要求

この項では、次の情報について説明します。

- [ユーザが Web Conferencing に接続する仕組み \(P.1-5\)](#)
- [Web Conferencing が要求を処理する仕組み \(P.1-6\)](#)

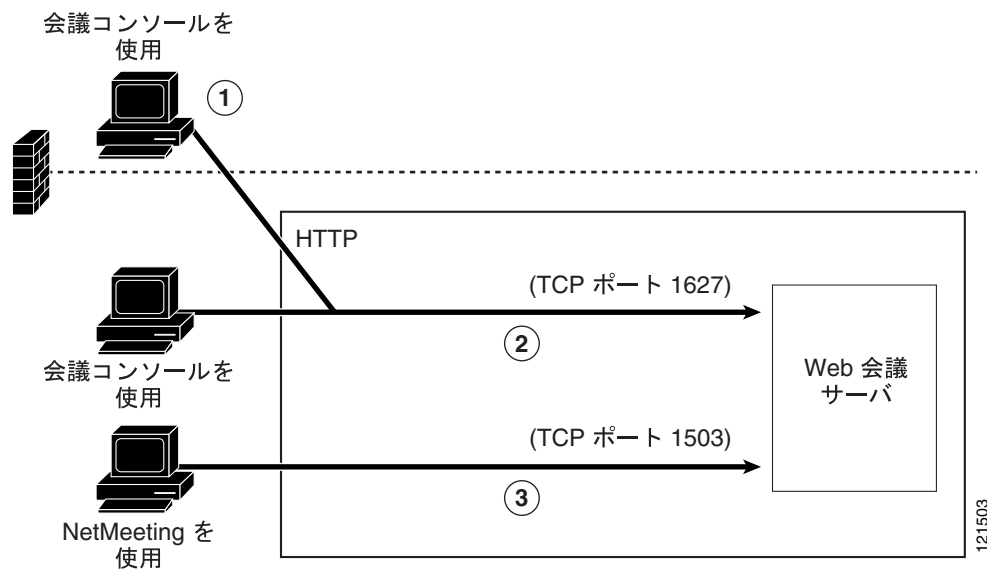
ユーザが Web Conferencing に接続する仕組み

会議の開始がスケジュールされると、Cisco MeetingPlace Agent Service は、Web エンジンに会議を起動するよう指示します。会議が起動すると、会議コンソールがユーザのデスクトップ上にダウンロードされ、ユーザが Web サーバに接続できるようになります。

会議コンソールは TCP ポート 1627 経由で Web サーバと通信します (図 1-1 を参照)。ファイアウォールによってこのポートがブロックされている場合、Java クライアントはポート 80 経由で HTTP を介してトンネル接続を確立します。このプロセスによって会議コンソールがファイアウォールの制約事項を回避できるようになるため、外部ユーザは Web 会議に参加できます。

Web サーバでは、Secure Socket Layer (SSL) を使用して、HTTPS を介したトンネリングを行うこともできます。

図 1-1 ユーザが Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing と通信する仕組み

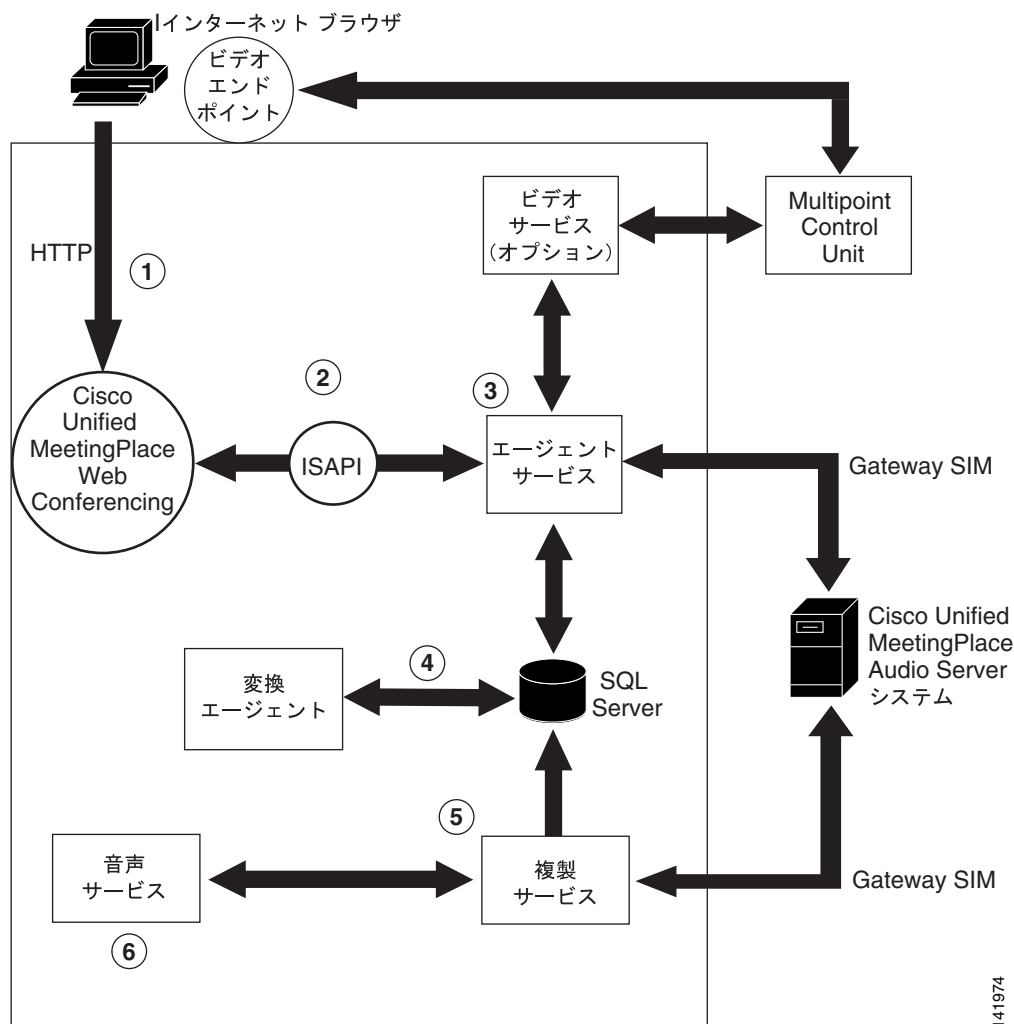


1. 外部参加者の場合、会議コンソールは、ポート 80 経由で HTTP を使用して通信をトンネルします。
2. 会議コンソールを使用する内部参加者の場合は、TCP ポート 1627 経由で Web サーバに直接接続されます。
3. NetMeeting を使用する内部参加者の場合、短縮ダイヤル ファイル (.cnf) が自動的にダウンロードされます。このファイルによって、NetMeeting が起動され、TCP ポート 1503 経由で NetMeeting が Web サーバに接続されます。

Web Conferencing が要求を処理する仕組み

図 1-2 に、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンポーネントが連携してユーザの要求を処理する仕組みを示します。

図 1-2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンポーネント



1. ユーザが、会議のスケジュール要求、プロフィールの変更要求、および会議への参加要求を送信します。
2. ISAPI が Cisco MeetingPlace Agent Service 向けにユーザ要求を処理し、ユーザに表示する HTML ページを生成します。
3. Agent Service が ISAPI からのユーザ要求をすべて管理し、次の操作を実行します。
 - Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムに、スケジュール要求とプロフィールアップデートを渡す。
 - Audio Server システムと Video Service との間の通信チャンネルとして機能する。Video Service の詳細については、『Cisco Unified MeetingPlace Video Integration アドミニストレーションガイド』を参照してください。
 - MPWEB データベースの情報を取得および保存する。

Agent Service の詳細については、P.1-4 の「Cisco MeetingPlace Agent Service の概要」を参照してください。

141974

4. Conversion Agent が、SQL Server データベースをポーリングして Microsoft PowerPoint ファイルをすべて受信し、プレゼンテーション スライドに変換します。
5. Replication Service が、Audio Server システムにある会議資料をコピーして、Web サーバに格納します。データへのポインタは SQL Server データベースに保持されます。また、Replication Service は、音声録音をファイル変換するために音声サービスに転送します。
6. 音声サービスが音声録音を変換し、変換後のファイルを Replication Service に戻します。

使用条件

この項では、この製品を設定または使用する場合に留意する必要がある特定の合意条件について説明します。

- [設定の制約事項 \(P.1-7\)](#)
- [サードパーティ ソフトウェアおよびセキュリティ アップデートの使用に関するシスコのポリシー \(P.1-7\)](#)
- [シングルサインオン ソフトウェア統合の条件 \(P.1-7\)](#)
- [シングルサインオン ソフトウェア統合のサポート条件 \(P.1-8\)](#)

設定の制約事項

Cisco Unified MeetingPlace 製品に組み込まれている構成機能の範囲を超えるか、または文書化された構成の設定、手順、または操作指示の範囲を超えてカスタマイズされた Web Conferencing の展開については、シスコシステムズはサポートしません。

このカスタマイズの例としては、次のものなどがあります。つまり、Web ページ テンプレートの変更、HTML または Javascript コードの変更、IIS 実行パラメータの変更、カスタム ASP ページまたは ISAPI フィルタの適用、SQL サーバ設定または認証方法の変更、IPSec ポリシーおよび NTFS ACL による Windows OS セキュリティの変更などです。

サードパーティ ソフトウェアおよびセキュリティ アップデートの使用に関するシスコのポリシー

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のマニュアルには、Web Conferencing ソフトウェアを使用するためのシステム、エンドユーザ、およびその他の要件が説明されています。この要件を変更したり、特定のサードパーティの製品を導入したりすると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ソフトウェアの動作と競合することがあります。また Web Conferencing 製品をサポートするシスコの機能に悪影響を及ぼすことがあります。特にサードパーティのファイアウォール、スパイウェア、およびアクセス保護ソフトウェアは、適切に設定されていないと、Cisco Unified MeetingPlace の動作を中断させる可能性が非常に高いと考えられます。

シングルサインオン ソフトウェア統合の条件

- 顧客宅内機器 (CPE) を使用して、Cisco Unified MeetingPlace Web サーバと SSO (シングルサインオン) ソフトウェアとを統合する場合は、自己の責任の下で使用してください。またシステムに SSO を統合する場合の技術上の実装および実現可能性について理解する必要があります。
- SSO ソフトウェアの統合は可能ですが、SSO ソフトウェア パッケージまたはベンダーのサポートは行いません。

- SSO ソフトウェアを統合する際は、Admin ページを使用して Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing システムを正しく設定する必要があります。SSO ソフトウェアの統合で Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 製品のソース コードを変更する必要がある場合、その SSO 統合は SSO カスタマイズとなるため、シスコはお客様またはその他の関係者によるカスタマイズはサポートしません。
- SSO パッケージを統合する CPE のお客様は、Cisco Managed Services に連絡して SSO を実装するためのサービス要求を入手できます。このサービスは便宜のために提供し、SSO 統合の対象範囲を変更するものではありません。このサービスは Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 製品の統合および設定であり、製品コードのカスタマイズではありません。
- お客様はまずテストまたは実験用サーバに SSO ソフトウェア統合を実装して、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の機能および操作などの、統合されたシステムが動作することを検証してください。
- 統合された Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing-SSO システムの安定性の確認についてはお客様が行う必要があります。これには、次の理由のための SSO ソフトウェア ベンダーとの通信などがあります。
 - 必要なフィックスおよびサポートの取得。
 - SSO パッケージに起因する異常終了などの、機能および技術上の問題のトラブルシューティング。
- SSO ソフトウェアには多くの場合、IIS ISAPI 拡張またはフィルタと呼ばれる Web サーバ拡張機能が組み込まれています。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、4 つの IIS 拡張機能をインストールして使用します。SSO ソフトウェア拡張と Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 拡張の間に互換性がない場合、IIS が機能しないか不安定になることがあります。SSO IIS 拡張が異常終了すると IIS が異常終了することがあり、また Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 全体が停止して、システム全体が再起動され、進行中の会議が終了し、Web 会議のユーザが切断されることがあります。SSO パッケージまたはモジュールのメモリ リークにより、IIS またはサーバ全体が不安定になることもあります。
- SSO ソフトウェア統合は Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing システム用に製品化されていますが、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing アップグレードおよび SSO パッケージ アップグレードなどの構成全体にわたる変更によって、統合された Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing-SSO システムが破壊される可能性があります。

シングル サインオン ソフトウェア統合のサポート条件

- お客様は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing, Cisco Unified MeetingPlace for Microsoft Outlook または Cisco Unified MeetingPlace for Lotus Notes のサービス要求を開始する場合には、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバにサードパーティ SSO パッケージがインストールされて Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が設定されていることを Cisco TAC に通知する必要があります。
- お客様は、要求された場合には、SSO 統合の詳細内容を提示できる必要があります。詳細内容を提示できない場合、Cisco TAC はサービス要求を処理できないことがあります。
- サービス要求が SSO 統合のトラブルシューティングの場合、Cisco TAC はログを調査して、問題が SSO 側か Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 側のいずれであるかを識別できます。問題が SSO 側の場合は、お客様に情報を提供して、お客様が SSO ベンダーと共に詳細にトラブルシューティングできるようにします。
- サービス要求が、SSO 統合と関係しないと思われる Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の問題のトラブルシューティングの場合、Cisco TAC は通常のサポート プロセスと同様に処理します。SSO 統合が問題に関係していることを TAC が見つけた場合、お客様に情報を提供して、お客様が SSO ベンダーと共に詳細にトラブルシューティングできるようにします。
- 問題が SSO パッケージによって発生したと Cisco TAC が判断した場合、Cisco TAC は、SSO パッケージを無効にしてさらにトラブルシューティングすることをお客様に依頼することがあります。
- これらの問題が SSO パッケージによって発生したかどうかを判別する際に、IIS 異常終了およびメモリ リークのトラブルシューティングのために Microsoft Debug Diagnostic ツール (DebugDiag と呼ばれる) が必要になることがあります。

新機能および拡張機能の情報

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の新機能および変更された機能の詳細については、次の URL の『*Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release Notes*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_release_notes_list.html.



Web Conferencing のインストール

この章では、新規に Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする方法について説明します。アップグレードについては説明しません。アップグレードの詳細については、「[Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレード](#)」の章を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [Web Conferencing のインストールについて \(P.2-2 \)](#)
- [インストール前の作業：Web Conferencing \(P.2-5 \)](#)
- [インストール作業：Web Conferencing \(P.2-10 \)](#)
- [Web Conferencing インストール システムのテスト \(P.2-14 \)](#)



(注)

この章に進む前に、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4*』をお読みください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html Release 5.4 の新規インストールには Cisco MCS が必要です。

Web Conferencing のインストールについて

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストールを開始する前に、次の概念を理解しておいてください。

- [SQL Server の統合について \(P.2-2\)](#)
- [SQL Server インストールのオプションについて \(P.2-3\)](#)
- [Sun Java Runtime Environment について \(P.2-4\)](#)

SQL Server の統合について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、Microsoft SQL Server と密接に統合されます。データベース (MPWEB および MPWEB-Slave-#####) には、Microsoft SQL Server を使用します。

展開する新規サーバは、すべて Cisco MCS か、または従来のシステムを使用する Cisco Unified MeetingPlace のお客様の場合は、Cisco MCS 相当のサーバにする必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は MSDE 2000 と呼ばれる分散バージョンの SQL Server に付属しています。MSDE 2000 および SQL Server 2000 は同一テクノロジーに基づいていますが、MSDE 2000 は SQL Server 2000 よりもスケーラビリティがありません。この設計上の制約のために、MSDE 2000 を実行している Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のお客様は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の使用が増加すると、パフォーマンス上の問題やスケーラビリティに関連した問題が発生することがあります。

次の項では、MSDE に関連したパフォーマンスおよびスケーラビリティの制約を予想し、診断する方法について説明します。

- [MSDE データベース サイズ \(P.2-2\)](#)
- [MSDE データベースのスケーラビリティ \(P.2-2\)](#)

MSDE データベース サイズ

MSDE では、データベース サイズが 2 GB に制限されています。MPWEB または MPWEB-Slave データベースが 2 GB に達すると、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing アプリケーションが失敗することがあります。したがって、MPWEB データベースの増加の度合いを監視して、いずれかのデータベースが 2 GB に達する前に次のいずれかの操作を行う必要があります。

- MeetingNotes の Purge Meetings Held Before (Days) パラメータに、より高い値を設定します。
- プロセッサごとのライセンスの、フルバージョンの SQL Server にアップグレードします。これにはデータベース サイズの制限はありません。

MSDE データベースのスケーラビリティ

MSDE は、高負荷でのスケーラビリティを制限するために、同時作業負荷スロットル メカニズムを実装しています。現在では、このメカニズムは、8 個を超える SQL クエリーが同時に実行されたときにアクティブになります。しかし、アクティブな Web 会議ユーザの数とこの制限の超過は直接に関連付けされていません。

むしろ、この制限の超過は、次に依存します。

- アクティブ ユーザの数。
- ある時点に使用される機能、およびこの機能がデータベースとやり取りする方法。
- データベースの現在のサイズ。
- サーバの能力 (たとえば、CPU およびディスク)。

この同時作業負荷スロットル メカニズムの実装に使用される特定のアルゴリズムについての情報を Microsoft は公開していませんが、シスコのテストでは、SQL クエリの数が増えるとクエリの制限を超えると速度が低下することが示されています。たとえば、10 個のクエリが同時に実行される場合、速度の低下はわずかです。20 個のクエリが同時に実行されると、速度の低下はより顕著になります。40 個以上のクエリが同時に実行されると、速度の低下が非常に顕著になり、ユーザが Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が応答しないか機能していないとすることがあります。

SQL Server インストールのオプションについて

インストールを容易にするために、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は Microsoft SQL Server と Microsoft SQL Desktop Engine (MSDE) の両方とバンドルされています。SQL Server は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing と同じマシン、またはパフォーマンスを向上させるために、別のマシンにインストールすることができます。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing と同じマシンに SQL Server をインストールする場合は、インストール時に SQL Server データベースの場所として [Local] を選択します。インストーラがローカル システムにある SQL Server 2000 のバージョンの検出に失敗した場合、インストーラは SQL Server 2000 と該当するサービス パックの両方を自動的にインストールします。追加の操作は不要です。




(注) 必要なサービス パックについては、次の URL の^F *System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace* を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

別のマシンに SQL Server をインストールする場合は、まず SQL Server 2000 と該当するサービス パックの両方をインストールしてから Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールし、その後 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を MCS にインストールします。インストール時に、SQL Server データベースの場所として [Existing remote] を選択し、適切な SQL アクセス情報を入力します。

表 2-1 に、SQL Server または MSDE を自動的にインストールするために Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が満たす必要のある条件を説明します。

表 2-1 SQL Server の自動インストールの条件

満たした条件	Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の処理
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco MCS サーバ OS イメージをインストールする Cisco MCS サーバまたは Cisco MCS 相当のサーバに、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする。 • インストール時に、SQL Server の場所として [Local] を指定する。 • インストーラが、ローカル サーバ上に SQL Server の既存のインストールを検出しない。 	フルバージョンの SQL Server 2000 をインストールする。
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco MCS 以外のサーバに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする。 • Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール時に、SQL Server のインストール場所として [Local] を指定する。 • インストーラが、ローカル サーバ上に SQL Server の既存のインストールを検出しない。 	MSDE をインストールする。
<p>インストール時に、SQL Server のインストール場所として [Remote] を指定する。このオプションでは、リモートサーバにフル SQL または MSDE をインストールしてから、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする必要があります。</p> <p>または</p> <p>SQL Server のインストール場所として [Local] を指定したが、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストーラが、SQL または MSDE がすでにローカル サーバにインストールされていることを検出する。</p>	SQL Server も MSDE もインストールしません。
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco MCS サーバに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする。 • 同じ Cisco MCS サーバにフルバージョンの SQL Server をインストールするか、ローカルにすでに存在する。 	SQL Server サービス パックをインストールする。  (注) SQL Server サービス パックが自動的にインストールされない場合は、Microsoft Web サイトから該当するサービス パックをダウンロードして、手動でインストールします。

Sun Java Runtime Environment について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing には、特定のバージョンの Sun Java Runtime Environment (JRE) が必要です (次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html)。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールするマシンに現在 Sun JRE がインストールされている場合は、サポートされるバージョンであることを確認してください。サポートされない場合、インストーラが停止して、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストールを再開する前に Sun JRE をアンインストールするように要求されます。

Sun JRE がインストールされていない場合は、インストーラが自動的に Sun JRE をロードします。追加の操作は不要です。

インストール前の作業 : Web Conferencing

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする前に、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace*』から最新のシステム要件を確認してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html。要件を確認する場合は、次の事項に留意してください。

- Web Conferencing を Segmented Meeting Access 構成でインストールする(外部アクセスを可能にする)場合は、このマニュアルの「[Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール](#)」の章も参照してください。
- ロード バランシング構成で Web Conferencing をインストールする場合は、このマニュアルの「[ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール](#)」の章も参照してください。

システム要件を確認したら、次のインストール前の作業を実行します。

1. [Cisco Unified MeetingPlace Audio Server のインストール \(P.2-5\)](#)
2. (オプション) [リモート サーバへの SQL Server のインストール \(P.2-5\)](#)
3. [最小権限 SQL アカウントの作成 \(P.2-5\)](#)
4. [Web Conferencing インストール値の収集 \(P.2-8\)](#)

Cisco Unified MeetingPlace Audio Server のインストール

Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバに Audio Server ソフトウェアをインストールし、設定してから、Web Conferencing のインストールを開始する必要があります次の URL の『*Cisco Unified MeetingPlace Audio Server インストール アップグレード ガイド*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

リモート サーバへの SQL Server のインストール

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing には SQL Server が必要です。SQL Server(または MSDE)は、Web Conferencing と同じマシン、または別のマシンにインストールできます。

別のマシンに SQL Server をインストールする場合は、SQL Server 2000 と該当するサービス パックの両方を別の Windows マシンにインストールしてから Web Conferencing をインストールします。マシンは Cisco MCS でも Cisco MCS 以外の従来型のマシンでもかまいません。



(注) Microsoft SQL Server Database Engine (MSDE) はサポートされていますが、すべての Cisco Unified MeetingPlace システム (特に実稼働システム) には、すべてのライセンスを受けた SQL Server を使用することを強くお勧めします。

最小権限 SQL アカウントの作成

デフォルトでは、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は SQL および MSDE 組み込みの sa 管理者アカウントを使用してデータベースに接続します。サーバのハードウェアおよびインストール時に選択したオプションにより、Web Conferencing は SQL または MSDE をインストールします。SQL および MSDE インストールの詳細については、[P.2-2 の「SQL Server の統合について」](#)を参照してください。

SQL または MSDE のインストール時に、sa アカウントのパスワードの設定を要求されます。パスワードは空白とせず、堅固なものを設定してください。多くの場合、堅固なパスワードとは、許可されないアクセスから使用するシステムを確実に保護するために十分に安全なパスワードです。しかし、すべての管理権限のある SQL アカウントを使用しないようにする場合は、Web Conferencing で使用する最小権限 SQL アカウントを作成できます。

**注意**

Web Conferencing 専用の SQL アカウントを作成する場合は、そのアカウントがこの手順で指定されたすべての要件を満たすようにします。これらの要件が満たされない場合、Web Conferencing と SQL Server との間のデータベース接続障害が発生し、機能が全体的に停止または中断することがあります。

**(注)**

ご使用の SQL アカウントが要件を満たしていないと Cisco TAC が判断した場合、アカウントの問題が修復されたときに新しいデータベースを作成できるように、SQL アカウントを再設定して、既存の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing データベースをすべて削除することをお客様に依頼します。

Web Conferencing インストーラは SQL アカウントが存在するかどうか、またそのユーザ名とパスワードの組み合わせが有効かどうかは検証しません。このため、使用する予定の SQL Server アカウントが存在することを確認し、このアカウントが必要なアクセス権を満たしていることを確認してから、Web Conferencing をインストールする必要があります。したがって、認証を使用する Cisco Unified MeetingPlace データベースへのアクセスに使用できる SQL アカウントを作成するには、次の手順を実行します。

- [インストールおよび処理続行権限の割り当て \(P.2-6\)](#)
- [サーバおよびデータベース役割の割り当て \(P.2-7\)](#)

インストールおよび処理続行権限の割り当て

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール時に、SQL Server のユーザ名とパスワードの入力を要求されます。この SQL Server ユーザには、インストール時に指定する SQL Server インスタンスにログインする権限が必要です。権限の割り当ておよび確認を行うには、次の手順を実行します。

インストールおよび処理続行権限の割り当て

ステップ 1 SQL Server ユーザに次の追加権限を割り当てます。

- データベースの作成
- テーブルの作成
- デフォルトの作成

ステップ 2 (オプション) インストールが完了した後、この SQL Server ユーザからデータベース作成権限を削除します。

ステップ 3 SQL Server ユーザに、MPWEB データベース内のすべてのテーブルについて、次の権限があることを確認します。

- 選択
- 挿入
- 更新
- 削除



(注) このユーザは、MPWEB データベースを変更できる必要があります。

ステップ 4 次の項「[サーバおよびデータベース役割の割り当て](#)」に進みます。

サーバおよびデータベース役割の割り当て

SQL Server には、権限の認可および拒否の処理を簡素化する役割がいくつか組み込まれています。

データベースが作成されるまで、データベース役割を割り当てることはできません。したがって、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストールが完了するのを待ってから、役割を割り当てます。

サーバおよびデータベース役割を割り当てる

ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の適切な権限を持つユーザを作成するには、SQL Server Enterprise Manager を使用してユーザを作成し、次のサーバ役割を割り当てます。

- dbcreator

ステップ 2 MPWEB データベースに対する次のデータベース役割を割り当てます。

- public
- db_datareader
- db_datawriter
- db_ddladmin
- db_owner

トラブルシューティングのヒント

下記のエラーが表示された場合は、`exec sp_changedbowner 'sa'` コマンドを入力して MPWEB データベースのオーナーを変更します。これにより、MPWEB データベースに保存されているプロシージャが起動されます。

```
Error 21776: [SQL-DMO] The name 'dbo' was not found in the Users collection.  
If the name is a qualified name, use [] to separate various parts of the name,  
and try again.
```

このエラーの詳細については、Microsoft Knowledge Base Article 305711、「[BUG: DBO User Does Not Display in Enterprise Manager](#)」を参照してください。

Web Conferencing インストール値の収集

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストールの準備として、表 2-2 の情報を収集し、記録します。

表 2-2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール値




パラメータ	説明および値
MeetingPlace Server のホスト名	<p>このパラメータは Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムのホスト名を指します。インストールする複数の Web サーバがデータベースを共有し、同じ Audio Server システムをポイントする場合は、これらの Web サーバに設定されている Audio Server のホスト名が一致していることを確認します。</p> <p> (注) Web サーバと Audio Server システムが接続されている場合、つまり両者の間にファイアウォールがなく、ポート 5003 がブロックされておらず、Audio Server システムが動作している場合は、ホスト名の代わりに IP アドレスを使用できます。ただし、IP アドレスを使用すると、Audio Server システムのリバース接続機能が利用できなくなります。この機能は、ポート 5003 の着信がブロックされている場合に、Audio Server システムが Web サーバへの接続を起動できるようにするものです。</p> <p>ホスト名： IP アドレス： 注：</p>
Web サーバの場所	<ul style="list-style-type: none"> Internal (Full Access) : Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のすべての機能がインストールされ、有効になります。このサーバは、企業ネットワークの内部に配置されます。Segmented Meeting Access-2 Server (SMA-2S) 展開では、このサーバは内部 Web サーバとして機能します。 External (Limited Access) : Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing が参加専用機能付きでインストールされます。SMA-2S 展開では、このサーバは、企業ファイアウォールの外側にあるインターネット アクセス可能なネットワーク (DMZ など) に配置され、外部 Web サーバとして機能します。 Both : Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のリリースによって、このオプションは Both (Full Access) または Both (SMA-1S) と呼ばれます。 <p>Web Conferencing は、単一のマシンにインストールされますが、2 つの Web サイトをホストするように設定されます。1 つ目の Web サイトは、フルアクセス可能なユーザインターフェイスを内部ユーザに提供し、2 つ目の Web サイトは、参加専用アクセスをインターネットユーザに提供します。このサーバは、DMZ に配置され、Segmented Meeting Access-1 Server (SMA-1S) 展開を定義します。</p> <p> (注) Both 設定にはセキュリティ上の利点がありますが、セキュリティを最大限に高めるために SMA-2S 展開を強くお勧めします。</p> <p>SMA 設定の詳細については、「Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール」の章を参照してください。</p> <p>Web サーバの場所： 注：</p>

表 2-2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール値 (続き)

パラメータ	説明および値
Web サーバのホスト名 または静的 IP アドレス	<p>Segmented Meeting Access (SMA) の設定には、2 つのホスト名または IP アドレスが必要です。1 つは、内部 Web サーバまたはサイト用で、もう 1 つは、外部 Web サーバまたはサイト用です。</p> <p>内部 Web サーバのホスト名 :</p> <p>内部 Web サーバの IP アドレス :</p> <p>(オプション) 外部 Web サーバのホスト名 :</p> <p>(オプション) 外部 Web サーバの IP アドレス :</p> <p>注 :</p>
SQL Server 2000 データ ベースの場所	<p>このマシンに SQL Server 2000 をインストールする場合は、Local Server と入力します。</p> <p>Web サーバから、別のマシンにインストールされている SQL Server のバージョンを参照する場合は、Existing Remote Server と入力します。</p> <p>リモート SQL Server に接続する場合は、そのホスト名または IP アドレスも入力します。</p> <p>SQL Server の場所</p> <p>(オプション) リモート SQL Server のホスト名</p> <p>(オプション) リモート SQL Server の IP アドレス</p> <p>注 :</p>
SQL Server 2000 のユー ザ名とパスワード	<p>Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を新規にインストールし、SQL Server をローカルでインストールする場合は、ユーザ名として sa を使用します。</p> <p> (注) パスワードを入力する必要があります。Web Conferencing は、ブランクのパスワードはサポートしません。このインストール時に入力するパスワードは、空白の SQL Server パスワード、または以前入力した SQL Server パスワードを上書きします。</p> <p>ユーザ名 :</p> <p>パスワード :</p> <p>注 :</p>

インストール作業 : Web Conferencing

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストールは、次の2つの部分で構成されます。

1. [Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール \(P.2-10\)](#)
2. [Web Conferencing のインストール \(P.2-11\)](#)

Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール

開始する前に、システムがネットワークおよびシステム要件を満たすことを確認します。次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール

ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール先となるネットワーク接続済みの専用 Cisco MCS を用意します。

ステップ 2 Cisco MCS Unified CallManager Appliance に、必要な Cisco MCS オペレーティングシステムをインストールします。インストーラによってプロダクト キーを入力するよう要求されたら、**BTOO VQES C CJU IEBI** と入力します。

オペレーティングシステム CD は、Cisco Unified MeetingPlace アプリケーション ソフトウェアに付属しています。

MCS OS インストールの詳細については、次の URL の『*Cisco Unified MeetingPlace インストール プランニング ガイド*』の「Cisco MCS について」の項を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

ステップ 3 次の事項を確認します。

- Microsoft IIS 5.0 がインストールされている。
- IIS Administration Service と World Wide Web Publishing Service が動作している。
- デフォルト Web サイトが IIS に設定されている。
- Cisco MCS の管理者権限がある。

ステップ 4 (オプション) Sun JRE のリリースがインストールされている場合は、サポートされるバージョンであることを確認してください(*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace* を参照)。サポートされない場合は、Sun JRE をアンインストールします。

Web Conferencing によって、インストール時に Sun JRE の必要なリリースがインストールされます。詳細については、P.2-2 の「[Web Conferencing のインストールについて](#)」を参照してください。

ステップ 5 次の項「[Web Conferencing のインストール](#)」に進みます。

Web Conferencing のインストール

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の実行ファイルは、次のコンポーネントをインストールするのに 35 ~ 45 分かかります。

- Cisco Unified MeetingPlace Gateway SIM
- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ソフトウェア
- .NET Framework。
- SQL Server 2000 (ローカル サーバ オプションを選択した場合)、自動再起動が必要です。
- SQL Server 2000 サービス パックの該当するリリース (ローカル サーバ オプションを選択した場合)、自動再起動が必要です。



(注)

必要な SQL Server 2000 サービス パックについては、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

始める前に

- インストール先ディスクに、アプリケーション、添付ファイル、記録、および会議とプロファイルのデータベース情報を保管するために十分なディスク領域があることを確認します。これらの情報は、時間とともにサイズが増加します。次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace*』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- Cisco MCS でアンチウイルス ソフトウェアが実行されている場合は、それを無効にします。
- Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバに Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 5.4 以降がインストールされていることを確認します。
- P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」で収集した情報を用意します。
- P.2-10 の「Cisco MCS Server へのオペレーティングシステムのインストール」を完了します。

制約事項

Terminal Services を使用した Web Conferencing Release 5.4 のインストールまたは Release 5.4 へのアップグレードはサポートされていません。



注意

プログラムのインストール中や、システムの自動シャットダウンまたは再起動中は、サーバの動作を中断しないでください。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする

- ステップ 1** 開いているアプリケーションをすべて終了します。
- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing CD を CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、.exe ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。



(注) 「Missing Server Version」というエラーメッセージが表示された場合は、Audio Server リリース 5.4 以降が Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバにインストールされていることを確認します。正しいバージョンがインストールされている場合は、Web Conferencing のインストールを続行します。インストールされていない場合は、Audio Server ソフトウェアをバージョン 5.4 以降にアップグレードしてから続行します。

ステップ 3 インストール ファイルが抽出されたら、[Next] をクリックします。次に、P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」で収集した情報を使用して、インストーラ ウィンドウの指示に従います。次の考慮事項に注意してください。

- Audio Server システムのホスト名の代わりに IP アドレスを入力すると、リバース接続に関する警告メッセージが表示されます。
- このマシンが DMZ などのネットワーク セグメントにあり、リバース接続の使用を考えている場合は、IP アドレスの代わりにホスト名を入力して、インストールを続行します。
- このマシンが Audio Server システムに接続されている場合、つまり両者が同じネットワーク セグメントにあり、ポート 5003 が開いており、Audio Server システムが動作しており、リバース接続の使用を考えていない場合は、IP アドレスを使用して、インストールを続行します。

ステップ 4 インストーラは最初に Gateway SIM をインストールします。[InstallShield Wizard Complete] ウィンドウが表示されたら、[Finish] をクリックします。Gateway SIM がインストールされます。

ステップ 5 インストール キーを入力するようインストーラから要求された場合は、次の考慮事項に注意してください。

- Web Conferencing をインストールするマシンがすでに Audio Server システム上で設定されている場合は、[Installation Key Entry] ウィンドウでこのマシンのイーサネット アドレスを入力して、[Next] をクリックします。
- Web Conferencing の新規インストールの場合、このマシンは Audio Server システム上に設定されていない可能性があります。この場合は、このフィールドを空白のままにして [Next] をクリックします。

ステップ 6 P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」の情報を使用し、インストーラ ウィンドウの指示に従って作業を続行します。

ステップ 7 最後のインストーラ ウィンドウで、コンピュータを今すぐ再起動するオプションを選択してから、[Finish] をクリックします。変更を有効にするため、マシンを再起動する必要があります。

インストール時には、次の情報に留意してください。

- SQL Server の場所として [Local Server] を選択した場合、最初の再起動後に、インストーラによって SQL Server のインストールが開始されます。システム トレイの Cisco Unified MeetingPlace アイコンの状態が更新され、SQL Server のインストールが完了すると、サーバは自動的に再起動されます。
- インストーラがローカル SQL Server インストールを検出すると、2 回目の再起動後に、インストーラによって SQL Server サービス パックのインストールが開始されます。システム トレイにある Cisco Unified MeetingPlace アイコンの状態が更新されます。サービス パックのインストールが完了すると、サーバは自動的に再起動されます。
- SQL Server と SQL Server サービス パックのインストールには時間がかかるため、サーバのハードウェアによっては、インストールが完了するまでに 40 分以上必要なことがあります。
- Cisco Unified MeetingPlace アイコンは、オレンジ色のドアとして表示されています。

- SQL Server のインストールに時間がかかりすぎている (35 分以上かかっている) 場合は、タスク マネージャで、SQLInstall.exe が実行中であることを確認します。
- サーバの再起動が完了すると、インストーラが SQLInstall.exe を起動して、MPWEB SQL データベースが作成されます。この処理には、5 ~ 10 分程度かかります。

ステップ 8 Gateway SIM イベント ログを開いて、Web Conferencing アプリケーションのアクティビティを監視します。

ステップ 9 次の項「[Web Conferencing インストール システムのテスト](#)」に進みます。

Web Conferencing インストール システムのテスト

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールしたら、次の作業を行ってインストールされたシステムをテストします。

1. [Web Conferencing サーバの定義 \(P.2-14\)](#)
2. [HTTP 接続での Web サーバのテスト \(P.2-15\)](#)
3. [HTTPS 接続での Web サーバのテスト \(P.2-15\)](#)
4. [会議コンソールの接続テスト \(P.2-16\)](#)

Web Conferencing サーバの定義

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバの定義

ステップ 1 Web ブラウザを開いて、Web サーバの URL を入力します。

内部 Web サーバの場合、デフォルトの URL 構造は `http://<server>` です。ここで、`<server>` は内部 Web サーバの名前です。

外部 Web サーバの場合、デフォルトの URL 構造は `http://<server>/mpweb/admin` です。ここで、`<server>` は外部 Web サーバの名前です。

ステップ 2 Web Conferencing のホーム ページが表示されたら、システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインし、**[すぐにサインイン]** をクリックします。

内部 Web サーバの場合、**[ようこそ]** ページが表示され、一番上に自分の名前が表示されます。管理ページにアクセスするには、**[Admin]** をクリックします。

外部 Web サーバの場合、管理ページが表示されます。

ステップ 3 **[Admin]** ページで、**[Web Server]** をクリックします。

ステップ 4 ページの **[View]** から、設定する Web サーバの名前をクリックします。

この Web ページについての情報が、ページの **[Edit]** セクションに取り込まれます。

ステップ 5 **[Hostname]** に、Web サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。次の考慮事項に留意してください。

- このフィールドに Web サーバのホスト名だけが入力されている場合は、FQDN、つまり `hostname.domain.com` の形式に変更します。
- Web サーバが Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) に登録されていない場合は、代わりに IP アドレスを設定します。
- このホスト名または IP アドレスは、対象ユーザが解決できるものであることが必要です。詳細については、[P.2-15 の「HTTP 接続での Web サーバのテスト」](#)を参照してください。

ステップ 6 **[Web Conference Active]** には、**[Yes]** または **[No]** を選択します。

デフォルトでは **[Yes]** に設定されています。**[No]** を選択した場合、この Web サーバは会議をホストしません。

ステップ7 [Submit] をクリックします。

HTTP 接続での Web サーバのテスト

Web サーバが [Web Server] 管理ページで設定されたホスト名を使用して、Web サーバ自体を解決できることを確認します。これは前の項「[Web Conferencing サーバの定義](#)」の**ステップ5**で設定したホスト名で、エンドユーザがこの Web サーバへの接続に使用するホスト名でもあります。

HTTP 接続での Web サーバのテスト

ステップ1 Web サーバから、Web ブラウザを使用して Web サーバの `http://hostname.domain.com`、つまり完全修飾ドメイン名 (FQDN) に接続します。

または

Web サーバが Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) に登録されていない場合は、Web ブラウザを使用して Web サーバから IP アドレスに接続します。

ステップ2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページが表示されたら、接続は正常です。

エラー メッセージが表示された場合は、[P.6-4 の「サーバ接続に関する問題」](#)を参照してください。

HTTPS 接続での Web サーバのテスト

HTTPS 接続での Web サーバのテスト

ステップ1 Web サーバから、Web ブラウザを使用して Web サーバの `https://hostname.domain.com`、つまり完全修飾ドメイン名 (FQDN) に接続します。

または

Web サーバが Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) に登録されていない場合は、Web ブラウザを使用して Web サーバから IP アドレスに接続します。

ステップ2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のホーム ページが表示されたら、接続は正常です。

セキュリティに関する警告ダイアログボックスが表示された場合は、[P.6-4 の「サーバ接続に関する問題」](#)を参照してください。

会議コンソールの接続テスト

会議コンソールの接続をテストする

- ステップ 1** エンドユーザシステムで、Web ブラウザを開いて、アドレスフィールドに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の URL を入力して、Enter キーを押します。
- ステップ 2** システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
- ステップ 3** [ようこそ] ページで、[**会議スケジュールの作成**] をクリックします。
- ステップ 4** [新しい会議] スケジューリング ページで、会議の詳細を入力し、[**スケジュール**] をクリックします。
- ステップ 5** [ようこそ] ページで、スケジュールした会議の会議 ID を入力して、[**会議に参加**] をクリックします。
- ステップ 6** 会議コンソールが正しくロードされたことを確認します。
-



Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は 2 つの Segmented Meeting Access 構成をサポートしています。これを使用すると、ネットワーク セキュリティを維持したまま、ユーザに外部アクセスを提供できるようになります。ファイアウォール内のポートを開くだけで、Cisco Unified MeetingPlace Web 会議への外部アクセスが可能になりますが、セキュリティが不十分であるため、この方法はお勧めしません。

この章は、次の項で構成されています。

- [Segmented Meeting Access について \(P.3-2\)](#)
- [SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール \(P.3-5\)](#)
- [SMA-2S 構成での Web Conferencing のインストール \(P.3-7\)](#)



(注) この章を検討する前に、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件 Release 5.4』をお読みください。http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

Segmented Meeting Access について

外部参加者を受け入れる方法として、ファイアウォール経由のポート アクセスを制御することは有効ですが、代わりに Segmented Meeting Access (SMA) 構成を検討することを強くお勧めします。SMA 構成は、企業のプライベート ネットワーク上で一部の会議を分離し、外部として指定されたその他の会議をインターネットに公開します。ユーザは、スケジュール作業の中で [新しい会議] スケジューリング ページの [インターネットアクセスを許可] パラメータを設定することで、会議を内部または外部として指定します。

一般に、外部アクセス向けの会議をホストする場合、Cisco MCS は非武装地帯 (DMZ) に配置されます。DMZ とは、企業のプライベート ネットワークとインターネットの間に作成されたネットワーク セグメントです。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、2 つの SMA 構成がサポートされています。どちらを使用するかは、Web Conferencing のインストール時に指定できます。詳細については、表 2-2 (P.2-8) 「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール値」を参照してください。

次の項では、サポートされる SMA 構成について説明します。

- [SMA-1S 構成について \(P.3-2\)](#)
- [SMA-2S 構成について \(P.3-3\)](#)
- [SSL およびセグメント化された DNS を使用した SMA-2S 構成について \(P.3-4\)](#)

SMA-1S 構成について



(注)

要件については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』の「Segmented Meeting Access Requirements」の項を参照してください。

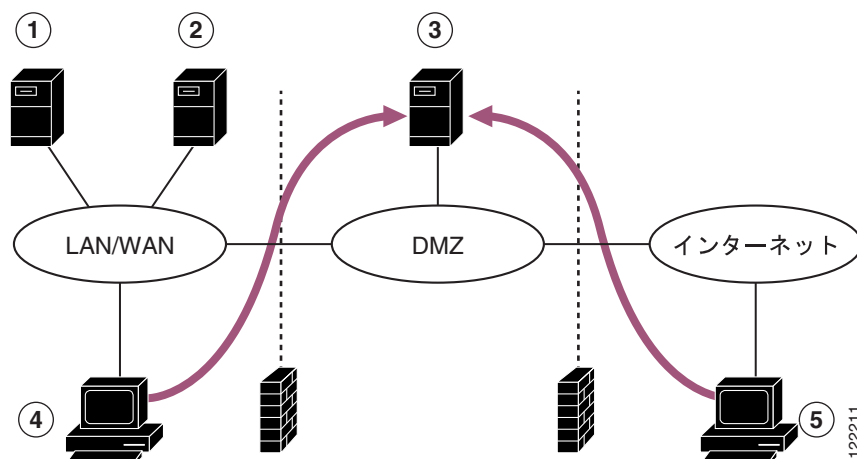
http://www.cisco.com/en/us/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 5.4 の新規インストールには Cisco MCS が必要です。


Segmented Meeting Access-1 Server (SMA-1S) 構成では、1 つの Web サーバが非武装地帯 (DMZ) などのネットワーク セグメントに配置され、2 つの Web サイトが Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing へのアクセスを提供します。一方の Web サイトには、ファイアウォールの内側からだけアクセスできます。もう一方の Web サイトには、ファイアウォールの内側と外側の両方からアクセスできます。

内部ユーザは、フルアクセス可能な Web Conferencing ユーザ インターフェイスにアクセスできますが、外部ユーザは、外部会議への参加だけが可能な参加専用 Web ページに制限付きでアクセスできます。

この構成の利点は、費用対効果に優れていることと (必要な Web サーバは 1 つだけであるため) 適度なレベルのセキュリティであることです。ただし、この構成は、Segmented Meeting Access -2 Server (SMA-2S) 構成に比べると展開が複雑で、仮想 Web サイトの設定が必要になります。また、通知内の単一の参加リンクに対して、セグメント化された DNS も必要になります。単一の参加リンクを保持する場合は、DNS に関する作業がさらに必要です。

図 3-1 Segmented Meeting Access - 1 Server 構成



1	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム	2	内部 DNS サーバ。
3	Cisco Unified MeetingPlace Web サーバ  (注) Web サーバには 2 つの IP アドレスを割り当てる必要があります。	4	内部ユーザ <ul style="list-style-type: none"> 内部ユーザは、内部会議に参加するときは内部 Web サイトを経由します。 内部ユーザは、外部会議に参加するときは内部 Web サイトから会議にリダイレクトされます。
5	外部ユーザ <ul style="list-style-type: none"> 外部ユーザは、外部会議にアクセスするときは外部 Web サイトを経由します。 外部ユーザは、内部会議にはアクセスできません。 		

SMA-2S 構成について



(注) 要件については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』の「Segmented Meeting Access Requirements」の項を参照してください。
http://www.cisco.com/en/us/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 5.4 の新規インストールには Cisco MCS が必要です。

Segmented Meeting Access -2 Server(SMA-2S)構成では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing は、2 つの別個の Web サーバまたは 2 つの別個の Web サーバ クラスタに展開されます。一方は、ファイアウォールの内側にある内部ネットワークで、もう一方は、DMZ などのネットワーク セグメントです。内部サーバまたはクラスタには、ファイアウォールの内側からだけアクセスできますが、外部サーバまたはクラスタには、ファイアウォールの内側と外側の両方からアクセスできます。

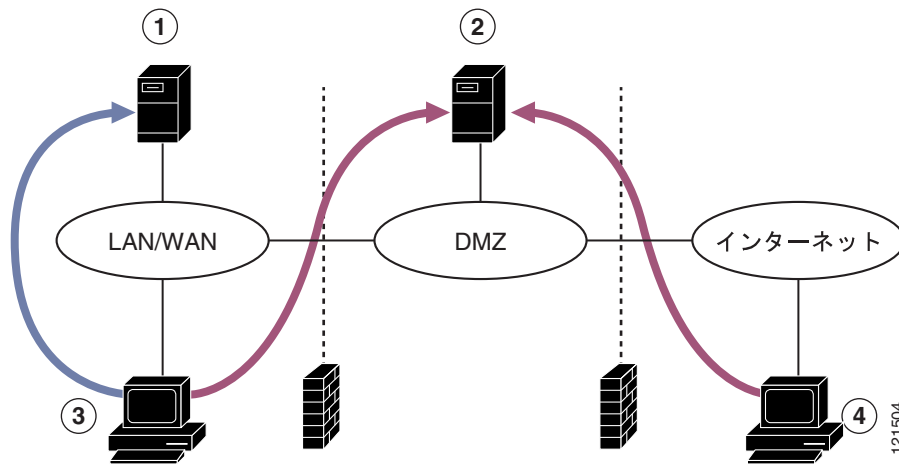
内部ユーザは、フルアクセス可能な Web Conferencing ユーザ インターフェイスにアクセスできますが、外部ユーザは、外部会議への参加だけが可能な参加専用 Web ページにアクセスできます。

SMA-2S 構成は、Cisco Unified MeetingPlace Web 会議への外部アクセスを提供する場合に優先される最も安全な展開モデルです。

外部 Web サーバには Secure Socket Layer (SSL) を使用するように設定することを強くお勧めします。この設定によって、セキュリティが最適な状態になり、Web 会議へのユーザの参加を妨げる可能性があるプロキシ サーバの問題が解決されます。詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

図 3-2 Segmented Meeting Access -2 Server 構成



1	内部 Cisco Unified MeetingPlace Web サーバ この Web サーバは、企業のプライベートネットワークの内部に配置されます。	2	外部 Cisco Unified MeetingPlace Web サーバ この Web サーバは、DMZ などのネットワークセグメントに配置されます。
3	内部ユーザ <ul style="list-style-type: none"> 内部ユーザは、内部会議に参加するときは内部 Web サーバを経由します。 内部ユーザは、外部会議に参加するときは外部 Web サーバを経由します。 	4	外部ユーザ <ul style="list-style-type: none"> 外部ユーザは、外部会議だけに参加できます。 外部会議に参加する外部ユーザは、外部 Web 会議サーバを経由します。

SSL およびセグメント化された DNS を使用した SMA-2S 構成について

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing システムの外部 Web サーバに SSL が構成され、セグメント化された DNS を使用する場合、セグメント化された DNS 名は、外部または内部マシン上の SSL 証明書名と同じ名前にはできません。構成のガイドラインについては、次の例を参照してください。

例

SMA-2S 構成を展開しており、外部ユーザには SSL が必要ですが、内部または外部マシンにアクセスする内部ユーザには不要です。

- セグメント化された DNS 名は meetingplace.company.com です。
- 外部マシンの SSL 証明書名は meetingplace1 です。

- 内部マシンからの外部マシンのホスト名は meetingplace1 です。
- URL および参加リンクはすべて、http://meetingplace.company.com の形式です。

ユーザが外部ネットワークから http://meetingplace.company.com にアクセスすると、外部マシンによってユーザは HTTPS およびデータベースに設定されているホスト名(この場合には、meetingplace1)の組み合わせに自動的にリダイレクトされます。



(注) すべてのユーザに SSL を強制すると、内部および外部ユーザは両方とも、外部 Web サーバにアクセスするときに、SSL の使用を強制されます。

SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール

この項では、次の作業について説明します。

1. [Web サーバに関する基本情報の収集 \(P.3-5\)](#)
2. [SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール \(P.3-6\)](#)

Web サーバに関する基本情報の収集

SMA-1S 展開の準備として、[表 3-1](#) の情報を収集し、記録します。

表 3-1 SMA-1S 展開の情報値

情報	値
Web サーバの NetBios (コンピュータ) 名	NetBios 名 : 注 :
Web サーバの IP アドレスまたはホスト名	IP アドレス : ホスト名 : 注 :
Web サーバが内部的に解決する IP アドレス	IP アドレス : 注 :
Web サーバが外部的に解決する IP アドレス	IP アドレス : 注 :

SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール

始める前に

「Web Conferencing のインストール」の章を読んで、インストール時に参照できるようにしておきます。

制約事項

- 次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』に説明されている要件をシステムがすべて満たしている必要があります。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- この Cisco MCS は DMZ などのネットワーク セグメントに展開する必要があります。

SMA-1S 構成での Web Conferencing のインストール

- ステップ 1** 開いているアプリケーションをすべて閉じます。
- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing CD を CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、.exe ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
- ステップ 3** [Server Location] を指定するよう求められたら、[Both (SMA-1S)] を選択します。
- [Both] オプションを選択すると、Web サーバは外部 Web サーバとして自動的に設定されます。外部 Web サーバは、企業のプライベート ネットワークの外側から Cisco Unified MeetingPlace Web 会議に参加するユーザに対して、変更された参加専用インターフェイスを表示します。
- ステップ 4** P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」の情報を使用し、インストーラ ウィンドウの指示に従って作業を続行します。
- ステップ 5** 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを今すぐ再起動するオプションを選択してから、[Finish] をクリックします。

変更を有効にするため、マシンを再起動する必要があります。

次の作業

SMA-1S 展開のための Web サーバを設定します。次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html。「How to Configure IIS」の項から開始します。

SMA-2S 構成での Web Conferencing のインストール

この項では、次の作業について説明します。

1. 内部 Web サーバおよび外部 Web サーバに関する基本情報の収集 (P.3-7)
2. 内部サーバへの Web Conferencing のインストール (P.3-8)
3. 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー (P.3-9)
4. 外部サーバへの Web Conferencing のインストール (P.3-10)


内部 Web サーバおよび外部 Web サーバに関する基本情報の収集

SMA-2S 展開の準備として、表 3-2 の情報を収集し、記録します。

表 3-2 SMA-2S 展開の情報値

情報	値
内部 Web サーバの NetBios (コンピュータ) 名	NetBios 名 : 注 :
内部ネットワークから解決可能な、内部 Web サーバのホスト名または完全修飾ドメイン名	ホスト名 : FQDN : 注 :
内部ネットワークから解決可能な内部 Web サーバの IP アドレス	IP アドレス : 注 :
内部 Web サーバが使用する SQL Server  (注) SQL Server は、Web サーバ上または別のリモートサーバ上のいずれにあってもかまいません (P.2-2 の「SQL Server の統合について」を参照)。	IP アドレス : ホスト名 : 注 :
内部 Web サーバから解決可能な外部 Web サーバの IP アドレスまたはホスト名	IP アドレス : ホスト名 : 注 :

表 3-2 SMA-2S 展開の情報値 (続き)

情報	値
外部 Web サーバの NetBios (コンピュータ) 名	NetBios 名 : 注 :
インターネットから解決可能な、外部 Web サーバのホスト名または完全修飾ドメイン名	ホスト名 : FQDN : 注 :
インターネットから解決可能な外部 Web サーバの IP アドレス	IP アドレス : 注 :
外部 Web サーバが使用する SQL Server 	IP アドレス : ホスト名 : 注 :
(注) SQL Server は、Web サーバ上または別のリモートサーバ上のいずれにあってもかまいません。内部 Cisco Unified MeetingPlace Web サーバおよび外部 Cisco Unified MeetingPlace Web サーバにはそれぞれ、独自の SQL Server が必要です (P.2-2 の「SQL Server の統合について」を参照)。	

内部サーバへの Web Conferencing のインストール

始める前に

インストールの手順については、「Web Conferencing のインストール」の章を参照してください。

制約事項

- 次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』に説明されている要件をシステムがすべて満足している必要があります。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- この Cisco MCS は企業のプライベートネットワークの内部に展開する必要があります。

内部サーバへの Web Conferencing のインストール

ステップ 1 開いているアプリケーションをすべて閉じます。

ステップ 2 Web Conferencing をインストールします。

- Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing CD を CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、.exe ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
- [Server Location] を指定するよう求められたら、[Internal (Full Access)] を選択します。

- c. SQL Server の場所に対しては [Local Server] を選択します。

Web サーバで Cisco MCS OS が動作していて、[Local Server] オプションを選択した場合、フルバージョンの Microsoft SQL Server が自動的にインストールされます。MCS 以外のサーバまたは [Remote Server] オプションなどの他のインストールの場合は、最初に SQL Server を手動でインストールしてから Web Conferencing をインストールする必要があります (SQL Server インストールの詳細については、P.2-2 の「SQL Server の統合について」を参照してください)。

- d. P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」の情報を使用し、インストーラ ウィンドウの指示に従って作業を続行します。
- e. 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを今すぐ再起動するオプションを選択して、[Finish] をクリックします。

変更を有効にするため、マシンを再起動する必要があります。

- Cisco MCS サーバを使用していて SQL Server の場所として [Local Server] を選択した場合、サーバが再起動されると、インストーラは続けて SQL Server および SQL Server サービスパックのインストールを開始します。このプロセスには多少の時間がかかる場合があり、マシンは 2 回自動的に再起動します。システムトレイにある Cisco Unified MeetingPlace アイコンの状態が更新されます。
- システムの再起動中は、プロセスを終了したり、サーバを再起動またはシャットダウンしたりしないでください。

次の作業

1. 内部 Web サーバを定義します。P.2-14 の「Web Conferencing サーバの定義」を参照してください。
2. P.3-9 の「内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー」に進みます。

内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー

サイトとシステムの GUIDS エントリは、内部 Web サーバと外部 Web サーバ間で一致している必要があります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする前に、外部 Web サーバごとに GUIDS.reg ファイルを実行したことを確認します。



注意

このステップは、外部 Web サーバで Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストーラを実行する前に完了しておく必要があります。このステップがスキップされた場合や正しく完了しなかった場合、内部ユーザが外部会議を利用したときに、プレゼンテーション モードが動作しません。この問題を解決するには、SQL Server データベースを再構築する必要があります。

始める前に

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を内部 Web サーバにインストールします。P.3-8 の「内部サーバへの Web Conferencing のインストール」を参照してください。

内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー

- ステップ 1** 内部 Web サーバ (Program Files\Cisco Systems\MPWeb ディレクトリ) にある GUIDS.reg ファイルをコピーします。
- ステップ 2** GUIDS.reg ファイルを、外部 Web サーバの Temp ディレクトリに貼り付けます。
- ステップ 3** 外部 Web サーバで、GUIDS.reg ファイルをダブルクリックしてインストールします。

ステップ 4 GUIDS.reg ファイルの情報をレジストリに追加するよう要求されたら、[OK] をクリックします。

ステップ 5 P.3-10 の「外部サーバへの Web Conferencing のインストール」に進みます。

外部サーバへの Web Conferencing のインストール

始める前に

インストールの手順については、「Web Conferencing のインストール」の章を参照してください。

制約事項

- Cisco MCS に Web Conferencing をインストールし、必要な Cisco MCS OS をインストールして実行する必要があります。次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace システム要件』を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- この Cisco MCS は DMZ などのネットワーク セグメントに展開する必要があります。

外部サーバへの Web Conferencing のインストール

ステップ 1 開いているアプリケーションをすべて閉じます。

ステップ 2 内部 Web サーバと外部 Web サーバ間で GUIDSystemID および GUIDSiteID を同期化していることを確認します

(P.3-9 の「内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー」を参照してください)

ステップ 3 Web Conferencing をインストールします。

- a. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing CD を CD/DVD-ROM ドライブに挿入し、.exe ファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
- b. [Server Location] を指定するよう求められたら、[External (Limited Access)] を選択します。
- c. SQL Server の場所については [Local Server] または [Remote Server] を選択します。

Web サーバで Cisco MCS OS が動作していて、[Local Server] オプションを選択した場合、フルバージョンの Microsoft SQL Server が自動的にインストールされます。MCS 以外のサーバまたは [Remote Server] オプションなどの他の設定の場合は、最初に SQL Server を手動でインストールしてから Web Conferencing をインストールする必要があります (P.2-2 の「SQL Server の統合について」を参照してください)。

- d. P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」の情報を使用し、インストーラ ウィンドウの指示に従って作業を続行します。
- e. 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを後で再起動するオプションを選択して、[Finish] をクリックします。

インストールを完了するには、**ステップ 5** でサーバを再度、再起動する必要があることにも注意してください。

- Cisco MCS サーバを使用していて SQL Server の場所として [Local Server] を選択した場合、サーバが再起動されると、インストーラは続けて SQL Server および SQL Server サービスパックのインストールを開始します。このプロセスには多少の時間がかかる場合があり、マシンは 2 回自動的に再起動します。システムトレイにある MeetingPlace アイコンの状態が更新されます。
- サーバに SQL Server または SQL Server サービスパックをインストールしている間は、プロセスを終了したり、サーバを再起動またはシャットダウンしないでください。

ステップ 4 GUIDS.reg ファイルをコピーして貼り付けます。

- a. Temp ディレクトリに移動します。
- b. GUIDS.reg ファイルをコピーして、Program Files\Cisco Systems\MPWeb ディレクトリに貼り付けます。

この結果、インストーラによって作成された GUIDS.reg ファイルが置き換わります。

ステップ 5 変更を有効にするため、マシンを再起動します。

ステップ 6 外部 Web サーバを定義します。P.2-14 の「Web Conferencing サーバの定義」を参照してください。

次の作業

SMA-2S 展開を設定します。次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

■ SMA-2S 構成での Web Conferencing のインストール



ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール

この章では、ロード バランシング構成での Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール方法について説明します。アップグレードについては説明しません。

アップグレード手順については、「[Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレード](#)」の章を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて \(P.4-2\)](#)
- [ビデオ対応システムのロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて \(P.4-8\)](#)
- [インストール前の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール \(P.4-10\)](#)
- [インストールの作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing \(P.4-13\)](#)
- [インストール後の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing \(P.4-26\)](#)



(注)

この章に進む前に、次の URL の『[System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4](#)』をお読みください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

ロードバランシング構成での Web Conferencing のインストールについて

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のロードバランシングは、アルゴリズムの数式を使用して、Web サーバのクラスタ内で Web 会議要求を均等に分散します。デフォルトでは、60 秒ごとにアップデートが行われ、現在のサーバ負荷と現在の Web 会議負荷が再計算されます。

クラスタ内の負荷が最も低い Web サーバを識別する場合は、次の追加要因が考慮されます。

- 各サーバの CPU 使用率。
- メモリ使用率。
- アクティブな会議の数。
- 参加者の数。

[Web Server] 管理ページでは、サーバ 1 つあたりの Web 会議負荷の量を表示できます。この情報は、内部 Web サーバだけで表示されます。

ロードバランシングを設定するには、この項の次の概念を理解する必要があります。

- [ロードバランシング構成での Web Conferencing のインストールの制約事項 \(P.4-2\)](#)
- [Web Conferencing のロードバランシングと標準の Web サーバのロードバランシング \(P.4-2\)](#)
- [Web Conferencing のクラスタ \(P.4-3\)](#)
- [Web Conferencing でのロードバランシングの動作 \(P.4-5\)](#)
- [Web Conferencing ロードバランシングのアルゴリズム \(P.4-6\)](#)
- [堅固な Cisco Unified MeetingPlace システムのための推奨事項 \(P.4-7\)](#)

ロードバランシング構成での Web Conferencing のインストールの制約事項

- Microsoft Network Load Balancing はサポートされていません。
- 「Both」インストール オプションを選択している場合、内部クラスタと外部クラスタに配置できる Web サーバは 1 つだけです。「Both」インストール オプションの詳細については、[P.2-8 の「Web Conferencing インストール値の収集」](#)を参照してください。

Web Conferencing のロードバランシングと標準の Web サーバのロードバランシング

標準の Web サーバのロードバランシングでは、通常、サードパーティ製アプリケーションが着信 Web サーバ要求を監視し、要求を別の Web サーバに送信して負荷を分散します。この操作は、DNS ラウンドロビン構成でも実行できます。

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のロードバランシングでは、すべてのユーザは 1 つの指定された Web サーバから参加します。また、すべてのユーザが同じ会議への参加を試みると、ユーザは同じ Web サーバに転送されます。Web 会議負荷をさまざまなサーバに分散するにあたって、現在のサーバ負荷が評価されます。HTTP (または HTTPS) 要求は、複数の Web サーバには分散されません。

Web Conferencing のクラスタ

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、クラスタに最大 6 個の Web サーバを設定でき、クラスタは内部クラスタまたは外部クラスタとして設定できます。

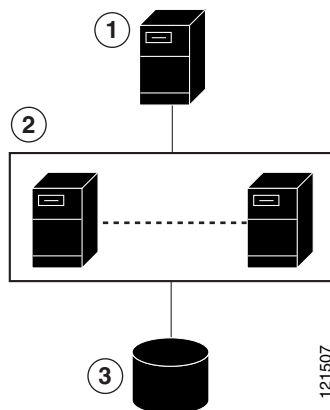
内部クラスタ：すべての Web サーバを企業のプライベート ネットワーク内にあるファイアウォールの内側に配置します。通常、内部クラスタにあるすべての Web サーバには、フルアクセス可能な Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インターフェイスが表示されます。

外部クラスタ：すべての Web サーバを企業のプライベート ネットワークとインターネット間に(たとえば、DMZ に)配置します。セキュリティ強化のため、外部クラスタにあるすべての Web サーバには、通常、参加専用の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インターフェイスが表示されます。

1 つの Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムには、最大 16 の Web サーバ(内部クラスタと外部クラスタの両方を含む)を接続できます。2 つのデータベース(内部クラスタ用と外部クラスタ用)は、同じ GUIDS を使用する必要があります。

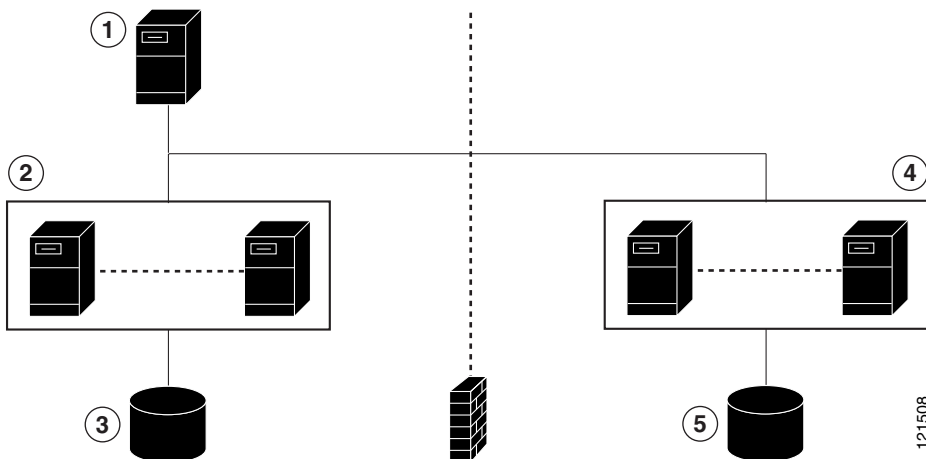
Web Conferencing では、考えられる 5 つのロードバランシング構成がサポートされます(図 4-1、図 4-2、および図 4-3 を参照)。

図 4-1 単一クラスタ構成



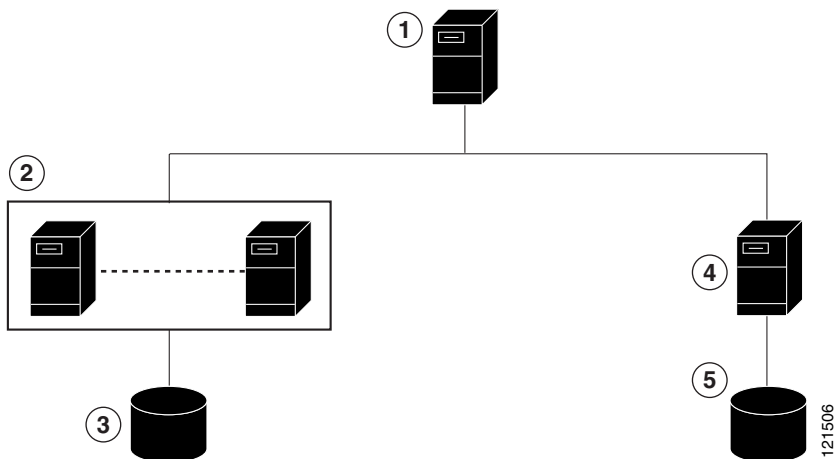
1	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム	2	Cisco Unified MeetingPlace Web サーバ クラスタ：内部クラスタまたは外部クラスタのいずれでもかまいません。
3	SQL Server：クラスタ内の Web サーバはすべて同一の SQL Server に接続する必要があります。	—	

図 4-2 混合構成：Web サーバの内部クラスタと外部クラスタ



1	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム	2	Web サーバの内部クラスタ：クラスタには最大 6 個の Web サーバを配置できます。
3	SQL Server：内部クラスタ内の Web サーバはすべて同一の SQL Server に接続する必要があります。	4	Web サーバの外部クラスタ：クラスタには最大 6 個の Web サーバを配置できます。
5	SQL Server：外部クラスタ内の Web サーバはすべて同一の SQL Server に接続する必要があります。		—

図 4-3 混合構成：単一の Web サーバと、Web サーバのクラスタ



1	Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システム	2	Web サーバのクラスタ：内部クラスタまたは外部クラスタのいずれでもかまいません。
3	SQL Server：クラスタ内の Web サーバはすべて同一の SQL Server に接続する必要があります。	4	単一 Web サーバ：内部 Web サーバまたは外部 Web サーバのいずれでもかまいません。
5	SQL Server：1 つの Web サーバを別の SQL Server に接続する必要があります。		—

Web Conferencing でのロードバランシングの動作

すべてのユーザは、ブラウザを開いて、Cisco Unified MeetingPlace のホーム ページからサインインすることにより、Cisco Unified MeetingPlace Web 会議に参加します。最初の会議参加者が Web 会議への参加を試みると、Cisco MeetingPlace Agent Service(エージェント サービス)が、[インターネットアクセスを許可]パラメータを確認して、会議を内部 Web サーバまたは外部 Web サーバのどちらで開催するかを判別します。このパラメータは、Cisco Unified MeetingPlace システムで外部サイトまたはクラスタが設定されている場合にだけ表示されます。

表 4-1 で、ロードバランシング構成オプションに関するロードバランシングの動作を説明します。

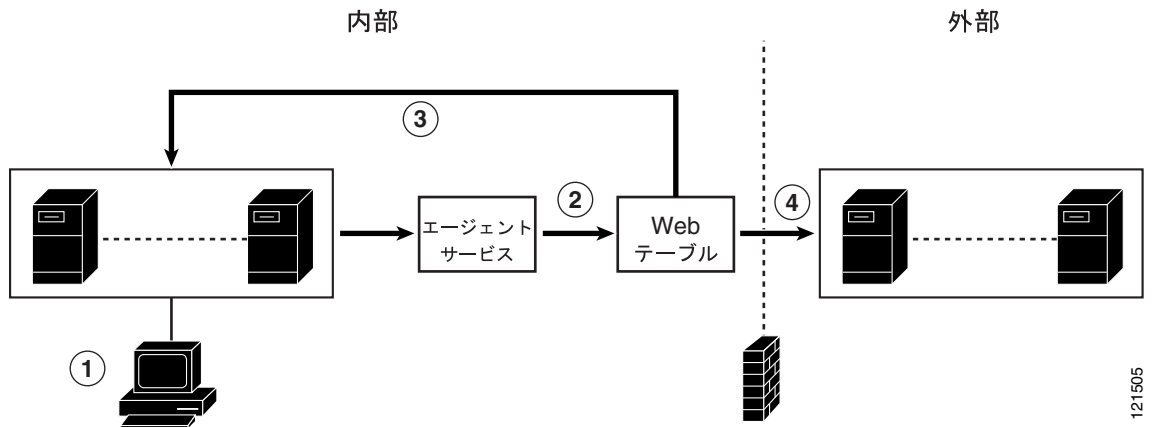
表 4-1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でのロードバランシングの動作

条件	結果
[インターネットアクセスを許可]が [いいえ] に設定されている。	この会議は、内部参加者専用です。最初の参加者が会議コンソールを起動すると、Agent Service が、内部クラスタ内の最も負荷の低い Web サーバに Web 会議セッションを転送します。その結果、この Web サーバが会議を主催します。以後、Web 会議の参加者はすべて、このサーバに転送されます。
[インターネットアクセスを許可]が [はい] に設定されている。	<p>外部参加者 (ファイアウォールの外側からの参加者) が、この会議にアクセスできるようになります。</p> <p>最初の参加者が外部 Web 会議サーバから Web 会議への参加を試みた場合、Agent Service が、外部クラスタ内の最も負荷の低い Web サーバを探します。Web 会議セッションがそのサーバに転送されます。その結果、そのサーバが会議を開催します。</p> <p>最初の参加者が内部 Web サーバから Web 会議への参加を試みた場合は、Agent Service が、関連付けられている外部 Web サーバがあるかどうかを判別します。この情報は、[Web Server Properties] 管理ページの [DMZ Web サーバ] フィールドにあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DMZ Web サーバ] フィールドにエントリがあった場合、Agent Service は、その外部サーバへのリダイレクションを実行します。 • Agent Service が [DMZ Web サーバ] フィールドのエントリを検出できなかった場合、Web 会議セッションは、内部会議の場合と同様、最も負荷の低い内部サーバに転送されます。以後、Web 会議の参加者はすべて、同じ Web サーバに転送されます。

内部ユーザは、内部会議と外部会議の両方に参加できます。会議が外部として指定されている場合、内部 Web サーバにログインする内部ユーザは、外部 Web サーバにリダイレクトされます。

外部ユーザは、外部 Web サーバ上の外部会議にだけ参加できます。

図 4-4 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの外部会議のリダイレクション



121505

1	最初のユーザが Web 会議への参加を試みます。	2	Agent Service が、Web テーブルを確認して、会議をどこで開催するかを判別します。
3	会議が内部の場合、Agent Service は、最も負荷の低い内部 Web サーバを探して、そのサーバに Web 会議セッションを転送します。	4	会議が外部（インターネット アクセスが可能）の場合、Agent Service は、関連付けられている外部 Web サーバがあるかどうかを確認します。サーバが見つかったら、このサーバに Web 会議セッションがリダイレクトされます。

Web Conferencing ロード バランシングのアルゴリズム

現在のデータ会議（DC）のロード バランシングのアルゴリズムは次のとおりです。

$$X = 0.5 * (\text{CPUPercent} * 0.6 + \text{MemPercent} * 0.4) + \text{DCLoad} * \text{DCLoad}$$

係数の値は次のとおりです。

- CPUPercent : Windows によって報告された、Web サーバでの特定のリソースの使用状況の値。この値は、0 から 1 の範囲で、パーセントとして示されます（たとえば、50 パーセントの場合は 0.5）。
- MemPercent : Windows によって報告された、Web サーバでの特定のリソースの使用状況の値。この値は、0 から 1 の範囲で、パーセントとして示されます。
- DCLoad : Web またはデータ会議（DC）ユーザの合計数のパーセント。この値は、0 から 1 の範囲で、パーセントとして示されます。
- X : ロード バランシング係数。X 値はサーバごとに計算され、最も値の小さなサーバが会議のホストとなります。

堅固な Cisco Unified MeetingPlace システムのための推奨事項

冗長やフェールオーバーを使用してシステムの堅牢性を保証するには、次の要素を配置することを推奨します。

- 内部 Web クラスタ
- 外部 Web クラスタ
- SQL ファーム形式の複数のリモート SQL Server
- RAID5 および包括的なバックアップ ポリシーを使用するリモートの格納場所

冗長およびフェールオーバーが設定されているシステムでフェールオーバーが行われると、次の動作が発生します。

1. 会議が割り当てられた Web サーバの応答が停止する(たとえば、コンピュータの電源が切断されたり Web Conferencing サービスがシャットダウンしたりする)。
2. 会議に参加しているユーザの、会議への接続が切断される。
3. Web Conferencing サービスの状況により、次の2つのうちのいずれかのイベントが発生します。
 - Web Conferencing サービスがシャットダウンされると、Cisco Unified MeetingPlace はクラスタ内の別の Web サーバに会議を割り当てる処理を開始します。この間に、会議に再度参加しようとしたユーザには、メッセージ「Page cannot be displayed」が表示されます。5分後、クラスタ内の別の Web サーバが会議の処理を開始し、ユーザは会議に再度参加できます。
 - Web Conferencing サービスがアクティブに保たれている場合、Cisco Unified MeetingPlace はクラスタ内の別の Web サーバへの会議の割り当てを行いません。会議に再度参加しようとしたユーザには、ページをローディング中であるというメッセージが表示されますが、ローディング処理は完了しません。

ビデオ対応システムのロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて

各 Cisco Unified MeetingPlace サーバにロード バランシング構成で Cisco Unified MeetingPlace Video Integration をインストールしても、Video Integration をアクティブにできる Web サーバは 1 つだけです。ビデオ対応システムのロード バランシングを設定する場合は、この制限を考慮することが重要です。

ビデオ対応システムで Web Conferencing ロード バランシングを設定するには、この項の次の概念を理解しておく必要があります。

- [ビデオ対応システムにおけるロード バランシングのデフォルトの動作 \(P.4-8\)](#)
- [Segmented Meeting Access 展開でのビデオ会議の考慮事項 \(P.4-8\)](#)
- [SQL Server の考慮事項 \(P.4-9\)](#)
- [エンドユーザの考慮事項 \(P.4-9\)](#)

ビデオ対応システムにおけるロード バランシングのデフォルトの動作

使用する Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムがビデオのライセンスを受けている場合、システムに接続されているすべての Web サーバに、ビデオ関連のフィールドが表示されます。このフィールドは、ビデオをスケジュールする権限を持ったユーザ向けに、次のページに表示されます。そのユーザはすべてこのフィールドを使用し、任意の Web サーバから会議をスケジュールすることができます。

- [新しい会議] スケジューリング ページ
- [会議の詳細] ページ
- [アカウント基本情報] ページ

ビデオをスケジュールする権限を持つユーザが会議をスケジュールすると、デフォルトでは、Web 会議コンポーネントは、Cisco Unified MeetingPlace Video Integration がアクティブ状態である (スケジュールにビデオ ポートが含まれているかどうか) Web サーバで開催されます。これにより、必要な場合に、アドホック ビデオを会議に追加できます。このサーバがダウンした場合は、[Load Stats Poll Period] 値を 5 倍した時間 (デフォルトでは 5 分) の経過後に、会議が別の Web サーバにロールオーバーされます。2 つ目の Web サーバでは Video Integration がアクティブになっていないため、会議コンソールのビデオ機能は無効になります。

ビデオ対応システムでのロード バランシングの動作をデフォルトから変更するための詳細については、[P.4-26 の「アドホック ビデオ会議の設定」](#)を参照してください。

Segmented Meeting Access 展開でのビデオ会議の考慮事項

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing では、2 つの Segmented Meeting Access 展開がサポートされているため、Web 会議を内部 Web サーバと外部 Web サーバの両方で開催できます (これら展開の詳細については、[「Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール」](#)を参照してください)。

Segmented Meeting Access-1 Server (SMA-1S) 展開では、ビデオ MCU へのアクセス権を持ったユーザは、Web 経由で内部と外部の両方のビデオ会議をスケジュールできます。

Segmented Meeting Access-2 Server (SMA-2S) 展開では、次の考慮事項に注意してください。

- Video Integration が内部 Web サーバまたはサーバのクラスタに配置されている場合、ユーザは Web から内部ビデオ対応会議をスケジュールできます。外部ビデオ会議をスケジュールする要求は拒否されます。

ビデオ対応会議をスケジュールする際、ユーザは、[新しい会議] スケジューリング ページの [インターネットアクセスを許可] を [いいえ] に設定していることを確認する必要があります。[はい] に設定されていると、スケジューリング要求が失敗します。

- Video Integration が外部 Web サーバまたはサーバのクラスタに配置されている場合、ユーザは Web から外部ビデオ会議をスケジュールできます。内部ビデオ会議をスケジュールする要求は拒否されます。

SQL Server の考慮事項

複数の SQL Server データベースを使用する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- ビデオ対応 Web サーバが内部クラスタにある場合、このサーバに接続されている Web サーバはすべて、同じ SQL Server データベースを共有する必要があります。
- この構成に準拠していない Web サーバは、共有 SQL Server データベースから参照できないため、ビデオ対応 Web サーバからは外部とみなされます。ユーザがこの Web サーバから内部ビデオ会議のスケジューリングを試みても、拒否されます。ただし、[インターネットアクセスを許可] パラメータを [はい] に設定すると、外部ビデオ会議をスケジュールできます。

エンドユーザの考慮事項

ユーザがビデオ エンドポイントを使用して会議へのダイヤルインを試みる場合、その会議をホストしている Web サーバのビデオ統合がアクティブになっていなくても、会議にダイヤルインする要求は成功し、ビデオ会議が作成される場合があります。ただし、その会議の会議コンソールでビデオ機能を使用することはできません。

インストール前の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール

インストールを開始する前に、必要に応じて、次の作業を完了します。

- 内部クラスタの準備 (P.4-10)
- 外部クラスタの準備 (P.4-11)
- 共通格納場所の作成 (P.4-12)

始める前に

- P.4-2 の「ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて」をお読みください。
- 必要に応じて、P.4-8 の「ビデオ対応システムのロード バランシング構成での Web Conferencing のインストールについて」をお読みください。
- 複数の Web サーバをインストールする場合は、Purge パラメータを同期化していることを確認してください。詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「最適データストレージのための Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定」の章の「MeetingNotes 消去パラメータおよび SMA-2S 設定について」を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

内部クラスタの準備

始める前に

次の URL の『System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace』の「Load Balancing Requirements」の項を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

制約事項

制約事項により、クラスタ 1 つあたりの Web サーバの許容最大数が減少する可能性があることに注意してください。詳細については、シスコのサポート担当者にお問い合わせください。

内部クラスタの準備

ステップ 1 共通ドメイン Windows 管理アカウントを指定および作成します。

このアカウントは、このクラスタ内のすべての Web サーバによって使用されます。このアカウントにより、Web Conferencing サービスが開始され、このクラスタ内のすべての Web サーバが Universal Naming Convention (UNC) パスを使用して共有の格納場所にアクセスできるようになります。

アカウントを作成した後、その値を記録しておきます。後で必要になります。



(注) 内部クラスタと外部クラスタに対して別々の値を指定してください。

ステップ2 共通格納場所を指定および作成します。

- このフォルダの作成先は、最初の内部 Web サーバと同じマシン上でも、別のマシン上でもかまいません。この共通格納場所とは、添付ファイルの格納場所であるため、このクラスタ内のすべての Web サーバが添付ファイルを検索するためにアクセスする場所であることに留意してください。詳細については、P.4-12 の「[共通格納場所の作成](#)」を参照してください。
- この値を UNC パスとして、つまり \\servername\shared folder\MPWeb\Meetings の形式で空欄に記入します。
- 共通格納場所（添付ファイル）： _____

ステップ3（オプション）音声ファイルの共通格納場所を指定します。

- 音声変換を実行する場合、音声ファイルの共通格納場所を指定して、エンコードされた音声ファイルを、会議に関連付けられた残りの添付とは別に格納することをお勧めします。
- このフォルダを作成したら、「共有フォルダ」状態に変更し、その場所を次の欄に記入します。
- 共通格納場所（音声ファイル）： _____
- Windows Media： _____
- MP3： _____

外部クラスタの準備

始める前に

（オプション）内部サーバと外部サーバの相違点を理解するには、「[Segmented Meeting Access 構成のための Web Conferencing のインストール](#)」の章を参照してください。

外部クラスタの準備**ステップ1** 共通ドメイン Windows 管理アカウントを指定および作成します。

このアカウントは、このクラスタ内のすべての Web サーバによって使用されます。このアカウントにより、Web Conferencing サービスが開始され、このクラスタ内のすべての Web サーバが UNC パスを使用して共有の格納場所にアクセスできるようになります。

このアカウントを作成した後、その値を記録しておきます。後で必要になります。



（注） 内部クラスタと外部クラスタに対して別々の値を指定してください。

ステップ2 共通格納場所を指定および作成します。

- このフォルダの作成先は、最初の外部 Web サーバと同じマシン上でも、別のマシン上でもかまいません。この共通格納場所とは、添付ファイルの格納場所であるため、このクラスタ内のすべての Web サーバが添付ファイルを検索するためにアクセスする場所であることに留意してください。詳細については、P.4-12 の「[共通格納場所の作成](#)」を参照してください。
- この値を UNC パスとして、つまり \\servername\shared folder\MPWeb\Meetings の形式で空欄に記入します。
- 共通格納場所（添付ファイル）： _____

ステップ3 (オプション) 音声ファイルの共通格納場所を指定します。

- 音声変換を実行する場合、音声ファイルの共通格納場所を指定して、エンコードされた音声ファイルを、会議に関連付けられた残りの添付とは別に格納することをお勧めします。
 - このフォルダを作成したら、「共有フォルダ」状態に変更し、その場所を次の欄に記入します。
 - 共通格納場所 (音声ファイル): _____
 - Windows Media : _____
 - MP3 : _____
-

共通格納場所の作成

各 Web サーバ クラスタには、共通格納場所が必要です。共通格納場所は、クラスタ内の最初の Web サーバと同じマシン上でも、別のマシン上でもかまいません。例として、次の手順では、クラスタ内の最初の Web サーバにある `Web_data` という共有フォルダを使用します。

共通格納場所の作成

ステップ1 `drive:\Web_data` というフォルダを作成し、共有フォルダに変更します。

ステップ2 `drive:\Web_data` に、`MPWeb` というフォルダを作成します。

ステップ3 `drive:\Web_data\MPWeb` に、`Meetings` というフォルダを作成します。その結果、次のディレクトリ構造が構築されます。

- `drive:\Web_data`
 - `drive:\Web_data\MPWeb`
 - `drive:\Web_data\MPWeb\Meetings`
-

インストールの作業：ロードバランシング構成での Web Conferencing

インストールは、次の8つの部分で構成されます。

- 最初の内部 Web サーバのインストール (P.4-13)
- 最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定 (P.4-14)
- 追加の内部 Web サーバのインストール (P.4-15)
- 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー (P.4-18)
- 最初の外部 Web サーバのインストール (P.4-18)
- 最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定 (P.4-20)
- 追加の外部 Web サーバのインストール (P.4-21)
- 外部会議のリダイレクションの設定 (P.4-24)

最初の内部 Web サーバのインストール

始める前に

- 「Web Conferencing のインストール」の章を読んで、この項で参照できるようにしておきます。
- P.4-10 の「内部クラスタの準備」を完了します。

最初の内部 Web サーバのインストール

ステップ 1 最初の内部マシンに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールします。

- [Server Location] には、[Internal (Full Access)] を選択します。
- [Database Location] には、適合するオプションを選択します。
 - 完全な SQL Server が別の場所にインストールされている場合は、[Existing remote server] を選択します。
 - インストーラを使用してこのマシンに SQL Server 2000 をインストールする場合は、[Local server] を選択します。
- 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを後で再起動するオプションを選択して、[Finish] をクリックします。

ステップ 2 この Web サーバの添付ファイルの場所と SSL オプションを設定します。

- a. Web ブラウザを開いて Web Conferencing のホームページにアクセスします。
 - b. システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
 - c. [Admin] をクリックして、[Web Server] をクリックします。
 - d. ページの [View] から、インストールした Web サーバの名前をクリックします。
 - e. [Attachment Location] に、共通格納場所のパスを UNC パスの形式で入力します（たとえば、`\\servername\sharedfolder\MPWeb\Meetings`）。
- この値は、P.4-10 の「内部クラスタの準備」のステップ 2 で入力したものです。
- f. [Require SSL] で、Web サーバに SSL 接続を設定するかどうかを示すため、[Yes]、[No]、または [Either] を選択します。[Either] は、この Web サーバは SSL 接続と SSL を使用しない接続の両方をサポートできることを意味します。

SSL の詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「Secure Sockets Layer の設定方法」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

- g. [Submit] をクリックして、ブラウザを閉じます。

ステップ 3 P.4-14 の「最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定」に進みます。

最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定

始める前に

P.4-13 の「最初の内部 Web サーバのインストール」を完了します。

最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定

ステップ 1 Cisco MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。

- a. Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
- b. [Stop] を選択します。

ステップ 2 MPWeb ディレクトリの Meetings フォルダを、内部クラスタの共通格納場所に移動します。

- a. Meetings フォルダを *drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb* から切り取ります。
- b. Meetings フォルダを *drive:\Web_data\MPWeb* に貼り付けます。
- c. 次のディレクトリ構造が構築されます。 *drive:\Web_data\MPWeb\Meetings*

ステップ 3 MPWeb ディレクトリに Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成し、UNC パスにマッピングします。

- a. IIS の [Default Web Site] を開き、MPWeb ディレクトリを開きます。
 - MPWeb ディレクトリ下に Meetings フォルダがある場合は、削除します。
 - **ステップ 2** で移動していれば、Meetings フォルダはすでに削除されています。
- b. MPWeb ディレクトリに、Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成します。
- c. MPWeb フォルダを右クリックし、[New] > [Virtual Directory] を選択します。
- d. [Alias] に、Meetings と入力します。
- e. [Directory] に、共通格納場所へのパスを UNC パス仕様に従って入力します。
この値は、P.4-13 の「最初の内部 Web サーバのインストール」で、[Web Server] 管理ページの [Attachment Location] フィールドに入力した値です。
- f. [ユーザ名] に、共通ドメイン Windows 管理アカウントのユーザ名を入力するか、[Browse] をクリックしてリストからユーザ名を選択します。
共通ドメイン Windows 管理アカウントは、P.4-10 の「内部クラスタの準備」のステップ 1 で作成したアカウントです。
- g. [パスワード] に、共通ドメイン Windows 管理アカウントに対して作成したパスワードを入力します。
- h. パスワードを確認して、[OK] をクリックします。
 - i. [Access Permissions] の、[Script and Executable] チェックボックスをオフにします。
 - j. [Finish] をクリックします。

ステップ 4 Windows の [Services] コントロール パネルで、共通 Windows 管理アカウントを使用して、次のサービスを [Log On As] に変更します。

- Cisco MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)
- Cisco MeetingPlace 音声サービス
- Cisco MeetingPlace Conferencing Gateway (会議ゲートウェイ)
- Cisco MeetingPlace Conversion Agent (変換エージェント)
- Cisco MeetingPlace Replication Service (複製サービス)
- Cisco MeetingPlace Web Conferencing

ステップ 5 レジストリ キーを設定します。

- a. regedit を開いて、次に移動します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Data Connection\DCMS\Admin.
- b. UserReset レジストリ キーが存在する場合は、削除します。キーの値を空白にするだけでは不十分です。
- c. 次のレジストリ キーを設定して、この Web サーバからの Web Conferencing サービスが共通格納場所にアクセスできるようにします。

User Domain	共通 Windows 管理アカウントを所有するドメインまたはワークグループに変更します。
UserName	Windows 管理ユーザ アカウントの名前を入力します。
UserPassword	Windows 管理ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
FileServer	[Attachment Location] の値と同じものに変更します。

- d. マシンをリブートします。

ステップ 6 必要に応じて、次の作業を行います。

- 内部 Web サーバを追加する場合は、P.4-15 の「追加の内部 Web サーバのインストール」を参照してください。
- 内部 Web サーバを追加しない場合は、P.4-18 の「内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー」を参照してください。

追加の内部 Web サーバのインストール

始める前に

P.4-13 の「最初の内部 Web サーバのインストール」および P.4-14 の「最初の内部 Web サーバに対するサービスの設定」を完了します。

制約事項

インストールする複数の Web 会議サーバが単一のデータベースを共有し、同じ Cisco Unified MeetingPlace Audio Server システムをポイントする場合は、すべての Web サーバのインストール時に、同じ MeetingPlace Server のホスト名を指定する必要があります。デフォルトでは、これらの MeetingPlace Server のホスト名が異なっていると、2 番目のサイトが WebConnect 構成で作成されず。

追加の内部 Web サーバのインストール

ステップ 1 内部クラスタ内の次のマシンに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールします。

- [Server Location] には、[Internal (Full Access)] を選択します。
- [Database Location] には [Existing remote server] を選択し、P.4-13 の「最初の内部 Web サーバのインストール」で使用した SQL Server を指定します。

ステップ 2 この Web サーバの添付ファイルの場所と SSL オプションを設定します。

- a. Web ブラウザを開いて Web Conferencing のホーム ページにアクセスします。
- b. システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
- c. [Admin] をクリックして、[Web Server] をクリックします。
- d. ページの [View] から、インストールした Web サーバの名前をクリックします。
- e. [Attachment Location] に、共通格納場所のパスを UNC パスの形式で入力します（たとえば、\\servername\sharedfolder\MPWeb\Meetings ）。

この値は、P.4-10 の「内部クラスタの準備」のステップ 2 で入力したものです。

- f. [Require SSL] で、Web サーバに SSL 接続を設定するかどうかを示すため、[Yes]、[No]、または [Either] を選択します。[Either] は、この Web サーバは SSL 接続と SSL を使用しない接続の両方をサポートできることを意味します。

SSL の詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「Secure Sockets Layer の設定方法」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

- g. [Submit] をクリックして、ブラウザを閉じます。

ステップ 3 Cisco MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。

- a. Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
- b. [Stop] を選択します。

ステップ 4 MPWeb ディレクトリに Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成し、UNC パスにマッピングします。

- a. IIS の [Default Web Site] を開き、MPWeb ディレクトリを開きます。
 - MPWeb ディレクトリに Meetings フォルダがある場合は、削除します。
 - 移動していれば、Meetings フォルダはすでに削除されています。
- b. MPWeb ディレクトリに、Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成します。
- c. MPWeb フォルダを右クリックし、[New] > [Virtual Directory] を選択します。
- d. [Alias] に、Meetings を入力します。
- e. [Directory] に、共通格納場所へのパスを UNC パス仕様に従って入力します。

この値は、P.4-13 の「最初の内部 Web サーバのインストール」で、[Web Server] 管理ページの [Attachment Location] フィールドに入力した値です。

- f. [ユーザ名] に、共通ドメイン Windows 管理アカウントのユーザ名を入力するか、[Browse] をクリックしてリストからユーザ名を選択します。
共通ドメイン Windows 管理アカウントは、P.4-10 の「内部クラスタの準備」のステップ 1 で作成したアカウントです。
- g. [パスワード] に、共通ドメイン Windows 管理アカウントに対して作成したパスワードを入力します。
- h. パスワードを確認して、[OK] をクリックします。
- i. [Access Permissions] の、[Script and Executable] チェックボックスをオフにします。
- j. [Finish] をクリックします。

ステップ 5 Windows の [Services] コントロールパネルで、共通 Windows 管理アカウントを使用して、次のサービスを [Log On As] に変更します。

- Cisco MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)
- Cisco MeetingPlace 音声サービス
- Cisco MeetingPlace Conferencing Gateway (会議ゲートウェイ)
- Cisco MeetingPlace Conversion Agent (変換エージェント)
- Cisco MeetingPlace Replication Service (複製サービス)
- Cisco MeetingPlace Web Conferencing

ステップ 6 レジストリ キーを設定します。

- a. regedit を開いて、次に移動します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Data Connection\DCMS\Admin.
- b. UserReset レジストリ キーが存在する場合は、削除します。キーの値を空白にするだけでは不十分です。
- c. 次のレジストリ キーを設定して、この Web サーバからの Web Conferencing サービスが共通格納場所にアクセスできるようにします。

User Domain	共通 Windows 管理アカウントを所有するドメインまたはワークグループに変更します。
UserName	Windows 管理ユーザ アカウントの名前を入力します。
UserPassword	Windows 管理ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
FileServer	[Attachment Location] の値と同じものに変更します。

- d. マシンをリブートします。

ステップ 7 この手順を繰り返して、内部 Web サーバをすべてインストールします。

ステップ 8 P.4-18 の「内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー」に進みます。

内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー

サイトとシステムの GUIDS エントリは、内部 Web サーバと外部 Web サーバで一致している必要があります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする前に、外部 Web サーバごとに GUIDS.reg ファイルを実行したことを確認します。



注意

このステップは、外部 Web サーバで Web Conferencing のインストーラを実行する前に完了しておく必要があります。このステップがスキップされた場合や正しく完了しなかった場合、内部ユーザが外部会議を利用したときにプレゼンテーション モードが動作しません。この問題を解決するには、SQL Server データベースを再構築する必要があります。

始める前に

最低 1 つの内部 Cisco Unified MeetingPlace Web サーバをインストールして設定しておきます。

内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー

-
- ステップ 1** 内部 Web サーバにある (*drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb*) GUIDS.reg ファイルをコピーします。
- ステップ 2** GUIDS.reg ファイルを外部 Web サーバの *drive:\Temp* ディレクトリに配置します。
- ステップ 3** 外部 Web サーバで、GUIDS.reg ファイルをダブルクリックしてインストールします。
- ステップ 4** GUIDS.reg ファイルの情報をレジストリに追加するよう要求されたら、[OK] をクリックします。
- ステップ 5** P.4-18 の「[最初の外部 Web サーバのインストール](#)」に進みます。
-

最初の外部 Web サーバのインストール

始める前に

- 「[Web Conferencing のインストール](#)」の章を読んで、この項で参照できるようにしておきます。
- P.4-11 の「[外部クラスタの準備](#)」を完了します。
- P.4-18 の「[内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー](#)」を完了します。



(注) サイトとシステムの GUIDS エントリは、内部 Web サーバと外部 Web サーバで一致している必要があります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする前に、外部 Web サーバごとに GUIDS.reg ファイルを実行したことを確認します。

最初の外部 Web サーバのインストール

-
- ステップ 1** 外部クラスタ内の最初 Web サーバに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールします。
- [Server Location] には、[External (Limited Access)] を選択します。

- [Database Location] には、適合するオプションを選択します。
 - SQL Server がローカルにインストールされている場合は、[Local Server] を選択します。
 - 完全な SQL Server が別の場所にインストールされている場合は、[Existing Remote Server] を選択します。
- 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを後で再起動するオプションを選択してから、[Finish] をクリックします。

ステップ2 GUIDS.reg ファイルをコピーして貼り付けます。

- a. *drive:\Temp* に移動します。
- b. GUIDS.reg ファイルをコピーします。
- c. GUIDS.reg ファイルを *drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb* に貼り付けます。
この結果、インストーラによって作成された GUIDS.reg ファイルが置き換わります。
- d. 変更を有効にするために、サーバを再起動します。

ステップ3 Web サーバの添付ファイルの場所と SSL オプションを設定します。

- a. ブラウザを開いて、<http://server/impweb/admin/> と入力します。ここで、*server* は、アクセス先の外部 Web サーバの名前です。
- b. システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
- c. [Admin] をクリックし、次に [Web Server] をクリックします。
- d. ページの [View] から、変更する Web サーバを選択します。

このサーバについての情報が、ページの [Edit] セクションに取り込まれます。

- e. [Attachment Location] に、共通格納場所のパスを UNC パスの形式で入力します（たとえば、`\\servername\sharedfolder\MPWeb\Meetings`）。

この値は、P.4-11 の「外部クラスタの準備」のステップ2で入力したものです。

- f. [Require SSL] で、この Web サーバに SSL 接続(`https://`)を設定するかどうかを示すため、[Yes]、[No]、または [Either] を選択します。[Either] は、この Web サーバは SSL 接続と SSL を使用しない接続の両方をサポートできることを意味します。

SSL の詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「Secure Sockets Layer の設定方法」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

- g. [Submit] をクリックして、ブラウザを閉じます。


ステップ4 P.4-20 の「最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定」に進みます。

最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定

始める前に

P.4-18 の「最初の外部 Web サーバのインストール」の手順を完了します。

最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定

-
- ステップ 1** すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。
- Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
 - [Stop] を選択します。
- ステップ 2** MPWeb ディレクトリの Meetings フォルダを、外部クラスタの共通格納場所に移動します。
- Meetings フォルダを `drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb` から切り取ります。
 - Meetings フォルダを `drive:\Web_data\MPWeb` に貼り付けます。
次のディレクトリ構造が構築されます。 `drive:\Web_data\MPWeb\Meetings`
-  **(注)** 内部クラスタと外部クラスタの共通格納場所が異なることを確認してください。
-
- ステップ 3** MPWeb ディレクトリに Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成し、UNC パスにマッピングします。
- IIS の [Default Web Site] を開き、MPWeb ディレクトリを開きます。
 - MPWeb ディレクトリ下に Meetings フォルダがある場合は、削除します。
 - ステップ 2** で物理的に移動していれば、Meetings フォルダはすでに削除されています。
 - MPWeb フォルダを右クリックし、[New] > [Virtual Directory] を選択します。
 - [Alias] に、Meetings と入力します。
 - [Directory] に、共通格納場所へのパスを UNC パス仕様に従って入力します。
この値は、P.4-18 の「最初の外部 Web サーバのインストール」で、[Web Server] 管理ページの [Attachment Location] フィールドに入力した値です。
 - [ユーザ名] に、共通ドメイン Windows 管理者アカウントのユーザ名を入力するか、[Browse] をクリックしてリストからユーザ名を選択します。
これは、P.4-11 の「外部クラスタの準備」のステップ 1 で作成したアカウントです。
 - [パスワード] に、共通ドメイン Windows 管理者アカウントに対して作成したパスワードを入力します。
 - パスワードを確認して、[OK] をクリックします。
 - [Access Permissions] の、[Script and Executable] チェックボックスをオフにします。
 - [Finish] をクリックします。
- ステップ 4** Windows の [Services] コントロール パネルで、共通 Windows 管理者アカウントを使用して、次のサービスを [Log On As] に変更します。
- Cisco MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)

- Cisco MeetingPlace 音声サービス
- Cisco MeetingPlace Conferencing Gateway (会議ゲートウェイ)
- Cisco MeetingPlace Conversion Agent (変換エージェント)
- Cisco MeetingPlace Replication Service (複製サービス)
- Cisco MeetingPlace Web Conferencing

ステップ5 レジストリ キーを変更します。

- regedit を開いて、次に移動します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Data Connection\DCMS\Admin.
- UserReset レジストリ キーが存在する場合は、削除します。キーの値を空白にするだけでは不十分です。
- 次のレジストリ キーを設定して、この Web サーバからの Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスが共通格納場所にアクセスできるようにします。

UserDomain	共通 Windows 管理者アカウントを所有するドメインまたはワークグループに変更します。
UserName	Windows 管理ユーザ アカウントの名前を入力します。
UserPassword	Windows 管理ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
FileServer	[Attachment Location] の値と同じものに変更します。

- サーバを再起動します。

ステップ6 外部 Web サーバを追加する場合は、P.4-21 の「追加の外部 Web サーバのインストール」に進みます。

外部 Web サーバを追加しない場合は、P.4-24 の「外部会議のリダイレクションの設定」に進みます。

追加の外部 Web サーバのインストール

始める前に

- P.4-18 の「最初の外部 Web サーバのインストール」および P.4-20 の「最初の外部 Web サーバに対するサービスの設定」を完了します。
- 最初の内部 Web サーバの GUIDS.reg ファイルが、各外部 Web サーバにコピーされていることを確認します。



- (注) サイトとシステムの GUIDS エントリは、内部 Web サーバと外部 Web サーバで一致している必要があります。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールする前に、外部 Web サーバごとに GUIDS.reg ファイルを実行したことを確認します。

追加の外部 Web サーバのインストール

ステップ1 次の外部 Web サーバに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールします。

- [Server Location] には、[External (Limited Access)] を選択します。

- [Database Location] には、[Existing remote server] を選択して、P.4-18 の「最初の外部 Web サーバのインストール」で使用した SQL Server を指定します。
- 最後のインストーラ ウィンドウが表示されたら、コンピュータを後で再起動するオプションを選択して、[Finish] をクリックします。

ステップ 2 GUIDS.reg ファイルをコピーして貼り付けます。

- a. *drive:\Temp* に移動します。
- b. GUIDS.reg ファイルをコピーします。
- c. GUIDS.reg ファイルを *drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb* に貼り付けます。
この結果、インストーラによって作成された GUIDS.reg ファイルが置き換わります。
- d. 変更を有効にするために、サーバを再起動します。

ステップ 3 Web サーバの添付ファイルの場所と SSL オプションを指定します。

- a. ブラウザを開いて、<http://server/mpweb/admin/> と入力します。ここで、*server* は、アクセス先の外部 Web サーバの名前です。
- b. システム管理者レベルのユーザ ID とパスワードを使用してサインインします。
- c. [Admin] をクリックし、次に [Web Server] をクリックします。
- d. ページの [View] から、変更する Web サーバを選択します。
このサーバについての情報が、ページの [Edit] セクションに取り込まれます。
- e. [Attachment Location] に、共通格納場所のパスを UNC パスの形式で入力します（たとえば、`\\servername\sharedfolder\MPWeb\Meetings`）。
この値は、P.4-11 の「外部クラスタの準備」のステップ 2 で入力したものです。
- f. [Require SSL] で、この Web サーバに SSL 接続(`https://`)を設定するかどうかを示すため、[Yes]、[No]、または [Either] を選択します。[Either] は、この Web サーバは SSL 接続と SSL を使用しない接続の両方をサポートできることを意味します。
SSL の詳細については、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーションガイド』の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing への外部アクセスの設定」の章の「Secure Sockets Layer の設定方法」を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html
- g. [Submit] をクリックして、ブラウザを閉じます。

ステップ 4 すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。

- a. Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
- b. [Stop] を選択します。

ステップ 5 MPWeb ディレクトリに Meetings という新しい仮想ディレクトリを作成し、UNC パスにマッピングします。

- a. IIS の [Default Web Site] を開き、MPWeb ディレクトリを開きます。
 - MPWeb ディレクトリ下に Meetings フォルダがある場合は、削除します。
 - 物理的に移動していれば、Meetings フォルダはすでに削除されています。
- b. MPWeb フォルダを右クリックし、[New] > [Virtual Directory] を選択します。
- c. [Alias] に、Meetings と入力します。

- d. [Directory] に、共通格納場所へのパスを UNC パス仕様に従って入力します。
この値は、P.4-18 の「最初の外部 Web サーバのインストール」で、[Web Server] 管理ページの [Attachment Location] フィールドに入力した値です。
- e. [ユーザ名] に、共通ドメイン Windows 管理者アカウントのユーザ名を入力するか、[Browse] をクリックしてリストからユーザ名を選択します。
これは、P.4-11 の「外部クラスタの準備」のステップ 1 で作成したアカウントです。
- f. [パスワード] に、共通ドメイン Windows 管理者アカウントに対して作成したパスワードを入力します。
- g. パスワードを確認して、[OK] をクリックします。
- h. [Access Permissions] の、[Script and Executable] チェックボックスをオフにします。
- i. [Finish] をクリックします。

ステップ 6 Windows の [Services] コントロール パネルで、共通 Windows 管理者アカウントを使用して、次のサービスを [Log On As] に変更します。

- Cisco MeetingPlace Agent Service (エージェント サービス)
- Cisco MeetingPlace 音声サービス
- Cisco MeetingPlace Conferencing Gateway (会議ゲートウェイ)
- Cisco MeetingPlace Conversion Agent (変換エージェント)
- Cisco MeetingPlace Replication Service (複製サービス)
- Cisco MeetingPlace Web Conferencing

ステップ 7 レジストリ キーを変更します。

- a. regedit を開いて、次に移動します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Data Connection\DCMS\Admin.
- b. UserReset レジストリ キーが存在する場合は、削除します。キーの値を空白にするだけでは不十分です。
- c. 次のレジストリ キーを設定して、この Web サーバからの Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスが共通格納場所にアクセスできるようにします。

UserDomain	共通 Windows 管理者アカウントを所有するドメインまたはワークグループに変更します。
UserName	Windows 管理ユーザ アカウントの名前を入力します。
UserPassword	Windows 管理ユーザ アカウントのパスワードを入力します。
FileServer	[Attachment Location] の値と同じものに変更します。

- d. サーバを再起動します。

ステップ 8 この手順を繰り返して、外部 Web サーバをすべてインストールします。

ステップ 9 P.4-24 の「外部会議のリダイレクションの設定」に進みます。

外部会議のリダイレクションの設定

外部会議は、ユーザがインターネットから会議に参加できるようにするために、外部 Web サーバ上で開催されます。すべてのユーザに特定の外部 Web サーバにログインさせるのではなく、内部 Web サーバから指定の外部 Web サーバへ、すべての外部会議を自動的にリダイレクトするよう設定します。

始める前に

すべての内部および外部 Web サーバに Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing を適切にインストールしておく必要があります。

外部会議のリダイレクションの設定

ステップ 1 内部 Web サーバから、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。

ステップ 3 空白の [Web サーバ名] フィールドに、指定した外部 Web サーバを表す新しい Web サーバの名前を入力します。

ステップ 4 [Hostname] に、外部 Web サーバの完全修飾ドメイン名を入力します(たとえば、*hostname.domain.com*)。Web サーバが Domain Name Server (DNS) に登録されていない場合は、代わりに IP アドレスを入力します。次の考慮事項に注意してください。

- 内部 Web サーバからこのホスト名を解決できる必要があります。
- SSL を使用する場合、SSL 証明書のホスト名が外部 Web サーバの IP アドレスとして解決されることを確認します。
- SSL とセグメント化された DNS を使用する場合は、DNS 名と SSL 証明書名が異なることを確認します。

ステップ 5 この Web サーバをデータベースに追加するには、[Submit] をクリックします。

これで、このサーバがページの下部にある Web サーバのリストに表示されます。

ステップ 6 1 つの内部 Web サーバと 1 つの外部 Web サーバだけの場合は、ここでこの手順を終了します。

複数の内部 Web サーバがある場合には、[ステップ 7](#) に進みます。

ステップ 7 メインの [Admin] ページに戻って [Site] をクリックします。

[Site] 管理ページが表示されます。

ステップ 8 内部 Web サーバのクラスタを表す [Site Name] をクリックします。次の考慮事項に注意してください。

- WebConnect を展開した場合を除き、このページに表示されるサイトは 1 つだけです。
- [Site Name] には、デフォルト値として、このクラスタにインストールした最初の Web サーバの NetBIOS 名が割り当てられます。

ステップ 9 [DMZ Web Server] で、追加した外部 Web サーバを選択します。

この結果、このクラスタ内の内部 Web サーバが、外部会議の場合にこの外部 Web サーバをポイントするように設定されます。

ステップ 10 [Submit] をクリックします。



ヒント 外部クラスタでは、追加で SQL Server データベースの設定を行う必要はありません。

ステップ 11 (オプション) Web 会議サーバのいずれかで Cisco Unified MeetingPlace Video Integration がアクティブになっている場合は、P.4-8 の「[ビデオ対応システムのロードバランシング構成での Web Conferencing のインストールについて](#)」でビデオ対応システムのロードバランシングに関する情報を確認します。

インストール後の作業：ロード バランシング構成での Web Conferencing

この項では、次の作業について説明します。

- [アドホック ビデオ会議の設定 \(P.4-26\)](#)
- [サーバにおける Web 会議負荷の表示 \(P.4-26\)](#)
- [ロード バランシングの無効化 \(P.4-27\)](#)

アドホック ビデオ会議の設定

アドホック ビデオ会議は、[Site] 管理ページでの設定によって制御されますこの設定は [Allow Web Load Balancing in Ad Hoc Video Meetings] と呼ばれ、デフォルトでは [No] に設定されています。

[No] に設定されている場合、システムにより、ビデオをスケジュールする権限を持ったユーザがスケジュールした会議はすべて、アクティブなビデオ対応 Web サーバで開催されるようになります。したがって、アドホック ビデオ会議を開始するときには必ずリソースを使用できます。この設定をお勧めします。

[Yes] を選択すると、ビデオをスケジュールする権限を持ったユーザが、ビデオ ポートを使用しない会議をスケジュールする場合、その会議は適切なサーバ全体にロード バランシングされます。したがって、ビデオ機能が使用できるかどうかは、Video Integration がアクティブ状態の Web サーバで会議の Web コンポーネントが処理されるかどうかによって決まります。処理される場合、アドホック ビデオ会議は正しく動作します。そうでない場合は、会議コンソールでビデオ機能を使用できません。

制約事項

ロード バランシングが設定されていない Web 会議サーバ クラスタで Cisco Unified MeetingPlace Video Integration がアクティブ状態の場合は、[Allow Web Load Balancing in Ad Hoc Video Meetings] の設定を [No] のままにしておいてください。

アドホック ビデオ会議の設定

-
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
 - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Site] の順にクリックします。
 - ステップ 3** [Allow Web Load Balancing in Ad Hoc Video Meetings] に対して、[No] または [Yes] を選択します。
-

サーバにおける Web 会議負荷の表示

Web サーバでの Web 会議の負荷の量は、[Current Server Load Index] フィールドに 0 から 1 までの数値で示されます。この数値は、CPU、メモリ、ディスク使用状況などの、いくつかの係数の加重平均です。この値が大きくなるほど、この Web サーバの負荷は高くなります。

サーバにおける Web 会議負荷の表示

-
- ステップ 1** Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。
 - ステップ 2** [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。

ステップ 3 ページの [View] から、表示する Web サーバを見つけます。

この Web サーバにおける Web 会議負荷の量は、[Current Server Load Index] フィールドに表示されます。

ロードバランシングの無効化

ロードバランシングの無効化

ステップ 1 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing にサインインします。

ステップ 2 [ようこそ] ページで、[Admin]、[Web Server] の順にクリックします。

ステップ 3 ページの [View] から、ロードバランシングから削除する Web サーバの名前をクリックします。

このサーバについての情報が、ページの [Edit] セクションに取り込まれます。

ステップ 4 [Web Conference Active] を [No] に設定します。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

■ インストール後の作業 : ロード バランシング構成での Web Conferencing



Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- [Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの制約事項 \(P.5-2\)](#)
- [Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの前に \(P.5-3\)](#)
- [アップグレード前のバックアップ \(P.5-4\)](#)
- [Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード \(P.5-6\)](#)
- [Web Conferencing、SQL Server、または MSDE ソフトウェアのアンインストール \(P.5-11\)](#)



(注) この章に進む前に、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4*』をお読みください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの制約事項

- Release 5.4 へのアップグレードをサポートしているバージョンのリストについては、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4*』の「Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 5.4」の項の「Upgrade Requirements」を参照してください。 http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- Terminal Services を使用したアップグレードはサポートされていません。
- 現在の参加リンク、添付ファイル、および会議の記録を保守する場合は、SQL Server データベースを削除しないでください。現在のデータベースを削除または再構築すると、これらの情報はすべて削除されます。
- Release 5.4 へのアップグレードは、サポート対象の Cisco MCS、または HP か IBM の相当するシステムでだけサポートされます。サポート対象の Cisco MCS、または HP か IBM の相当するシステムを使用していない場合は、サポート対象の Cisco MCS に Release 5.4 を新規インストールとしてインストールする必要があります。
- Web Conferencing ロード バランシング クラスタをアップグレードする場合は、クラスタ内のすべての Web サーバを同一のリリースおよびビルド番号にアップグレードする必要があります (たとえば、Release 5.4.x)。
- サポートされている以前のリリースに何らかのカスタマイズを行っている場合、Release 5.4 にアップグレードするとそのカスタマイズは失われます。全体的なシステム設定の一部として、Web Conferencing 管理ページを使用してそのカスタマイズを再実装する必要があります。
- ユーザインターフェイスのカスタマイズ(フィールドの表示 / 非表示、カスタム スtring の表示など)は、Web Conferencing 設定の一部として SQL データベースに保存されるため、Release 5.3 からのアップグレード時には保持されます。
- Release 5.3 以降、シスコは顧客宅内機器 (CPE) を持つお客様のカスタマイズ要求には対応していません。また Cisco TAC は、製品の組み込み構成機能範囲を超えたカスタマイズ、または文書化された構成設定、手順、または指示範囲を超えたカスタマイズが行われている CPE システムはサポートしません。このカスタマイズの例としては、次のものなどがあります。たとえば、Web ページ テンプレートの変更、HTML または JavaScript コードの変更、IIS 実行パラメータの変更、カスタム ASP ページまたは ISAPI フィルタの適用、SQL サーバ設定または認証方法の変更、IPSec ポリシーおよび NTFS ACL による Windows OS セキュリティの変更などです。

Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの前に

この項では、アップグレードの前に理解しておく必要がある場合がある次の情報について説明します。

- [Release 5.4 でのユーザ認証方法 \(P.5-3\)](#)
- [Release 5.4 でのロード バランシング \(P.5-3\)](#)

Release 5.4 でのユーザ認証方法

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing Release 5.4 では、複数の認証方法をサポートしています。Release 5.3(235) より前のサポート対象リリースからのアップグレードの場合、必要な認証方法を使用するには Web サーバを再設定する必要があります。

次の URL の^F *Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド* の「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing でのユーザ認証の設定」の章を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Release 5.4 でのロード バランシング

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がロード バランシング構成でインストールされている場合に Release 5.4 にアップグレードするには、Cisco MeetingPlace Web Conferencing サービスを管理者としてログオンするように設定する必要があります。管理者としてログオンするように Cisco MeetingPlace Web Conferencing サービスが設定されていないと、Web Conferencing は起動しません。

アップグレード前のバックアップ

既存の Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing インストールシステムをアップグレードする前に、重要なアプリケーション ファイルをバックアップする必要があります。バックアップ ファイルを使用すると、アップグレードまたはインストールが失敗した場合に、以前の環境に戻すことができます。

すべてのアップグレード シナリオ（フル アップグレードおよびパッチ アップグレード）には、次のバックアップ作業が必要です。

1. MPWEB データベースおよび MPWEB-Slave データベースのバックアップ (P.5-4)
2. 重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ (P.5-5)
3. Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ (P.5-5)

MPWEB データベースおよび MPWEB-Slave データベースのバックアップ

この項の手順では、データベースのバックアップに Enterprise Manager を使用します。まず MPWEB データベースをバックアップして、その後 MPWEB-Slave データベースをバックアップします。

osql コマンドを使用するには、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の付録「Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing および SQL Server」を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

MPWEB データベースおよび MPWEB-Slave データベースのバックアップ

-
- ステップ 1** Enterprise Manager を開きます。
- ステップ 2** データベース フォルダを展開します。
- ステップ 3** データベース名（MPWEB または MPWEB-Slave）を右クリックして、[All Tasks] > [Backup Database] を選択します。
- [SQL Server Backup n MPWeb] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** バックアップ ファイルの作成先を指定し、[OK] をクリックしてバックアップ操作を開始します。
- [Backup Progress] ウィンドウが表示され、バックアップ処理が完了すると閉じます。
- ステップ 5** [ステップ 1](#) から [ステップ 4](#) を繰り返して、MPWEB-Slave-#### データベースをバックアップします。



(注) 複数の MPWEB-Slave データベースを参照する場合は、ロード バランシング クラスタを使用します。このクラスタ内では複数の Web Conferencing サーバが連携して、データ会議のロード バランシングを行います。クラスタ内のメンバはすべて同じ MPWEB データベースを共有しますが、各メンバには独自の MPWEB-Slave データベースがあります。有効なデータベースをすべてバックアップします。

- ステップ 6** [P.5-5 の「重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ」](#)に進みます。
-

重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ

始める前に

P.5-4 の「MPWEB データベースおよび MPWEB-Slave データベースのバックアップ」を完了します。

重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ

-
- ステップ 1 Explorer を開きます。
 - ステップ 2 Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing アプリケーションがインストールされているフォルダに移動します。
 - ステップ 3 MPWeb フォルダを開きます。
 - ステップ 4 Diagnostics フォルダと Meetings フォルダ以外のフォルダをすべてバックアップします。
 - ステップ 5 P.5-5 の「Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ」に進みます。
-

Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ

始める前に

P.5-5 の「重要な Web Conferencing アプリケーション ファイルのバックアップ」を完了します。

Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報のバックアップ

-
- ステップ 1 レジストリ エディタを開きます。
 - ステップ 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Latitude に移動して選択します。
 - ステップ 3 メニューバーから、[Registry] > [Export Registry File] を選択します。
 - ステップ 4 ファイルを保存します。



ヒント バックアップ ファイルを保存するときに、バックアップの管理に役立つ情報を追加します。たとえば、フォルダ名に 4.3.0.246 および 5.4.x を含めて、フォルダに Release 4.3(0.246) バックアップ ファイルが含まれていることを示します。このバックアップ ファイルは Release 5.4.(x) にアップグレードする前に作成されています。

- ステップ 5 バックアップ ファイルをすべて、安全な場所に保存します。
-

Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード

この項では、次の情報について説明します。

- [Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備 \(P.5-6\)](#)
- [スタンドアロン Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード \(P.5-7\)](#)
- [スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へのアップグレード \(P.5-8\)](#)
- [同一データベースを共有する Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード \(P.5-9\)](#)

Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備

始める前に

- [P.5-2 の「Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの制約事項」](#)をお読みください。
- [P.5-3 の「Web Conferencing Release 5.4 へのアップグレードの前に」](#)をお読みください。
- [P.5-4 の「アップグレード前のバックアップ」](#)を完了します。



注意

Cisco Unified MeetingPlace Release 4.3(0.x)からアップグレードする場合、Web Conferencing は、すべてのカスタマイズを上書きします。アップグレード手順の説明に従って必ずカスタマイズをバックアップして、カスタマイズを後で取得できるようにしてください。

Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備

ステップ 1 システムがアップグレードの要件を満たしていることを確認します。

次の URL の『[System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4](#)』の『Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing 5.4』の項の『Upgrade Requirements』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

ステップ 2 Web サーバの接続先の Cisco Unified MeetingPlace 8100 シリーズ サーバに Cisco Unified MeetingPlace Audio Server Release 5.4 がインストールされていることを確認します。

インストールされていない場合は、次のいずれかの作業を行います。

- 8100 シリーズ サーバを Audio Server Release 5.4 にアップグレードします。次の URL の『[Cisco Unified MeetingPlace Audio Server インストールアップグレードガイド](#)』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html
- すでに Audio Server Release 5.4 が動作している別の 8100 シリーズ サーバに Web サーバを接続します。次の URL の『[Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド](#)』の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing の設定』の章の『Cisco Unified MeetingPlace Audio Server 接続の変更』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

ステップ 3 (オプション) Cisco MCS サーバまたは Cisco MCS 以外のサーバを最新の OS 要件にアップグレードします。

Cisco MCS サーバ	最新の Cisco MCS Server OS リリースまたはパッチにアップグレードすることをお勧めします。
Cisco MCS 以外のサーバ	最新の Windows 2000 Server サービス パックにアップグレードし、Windows Update ユーティリティの通知に従って、重要な追加セキュリティ ホット フィックスをすべてインストールすることをお勧めします。

ステップ 4 構成に基づいて、必要なアップグレードに進みます。

- [スタンドアロン Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード \(P.5-7\)](#)
- [スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へのアップグレード \(P.5-8\)](#)
- [同一データベースを共有する Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード \(P.5-9\)](#)

スタンドアロン Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード



注意

Cisco Unified MeetingPlace Release 4.3(0.x) からアップグレードする場合、Web Conferencing はすべてのカスタマイズを上書きします。アップグレード手順の説明に従って必ずカスタマイズをバックアップして、カスタマイズを後で取得できるようにしてください。

始める前に

- 「[Web Conferencing のインストール](#)」の章を用意して、アップグレード時に参照できるようにしておきます。
- P.5-6 の「[Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備](#)」を完了します。

スタンドアロン Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード

ステップ 1 すべての Web Conferencing サービスを停止します。

- Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
- [Stop] を選択します。

ステップ 2 Template、Html、Images、Jslib、および Scripts ディレクトリ内のカスタマイズされたすべての Web Conferencing ページと、すべてのイメージをバックアップします (ある場合)。

- 以前のバージョンの Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がインストールされているディレクトリを見つけます。通常、このディレクトリは `drive:\Latitude\mpweb` です。
- `mpweb_backup` という新しいディレクトリを作成します (たとえば、`drive:\Latitude\mpweb_backup`)。
- Template、Html、Images、Jslib、および Scripts ディレクトリとすべてのイメージを、`drive:\Latitude\mpweb` から `drive:\Latitude\mpweb_backup` にコピーします。

- ステップ 3** Web Conferencing セットアップ プログラムを実行し、「Web Conferencing のインストール」で説明されているインストール プロセスを実行します。

スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へのアップグレード

スタンドアロン Web サーバを共有データベース構成にアップグレードするには、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ソフトウェアをアンインストールしてから、再インストールする必要があります。P.5-11 の「Web Conferencing ソフトウェアのアンインストール」を参照してください。

始める前に

- 「Web Conferencing のインストール」の章を用意して、設定時に参照できるようにしておきます。
- P.5-6 の「Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備」を完了します。

制約事項

ローカル SQL Server データベースを使用するスタンドアロン Web サーバを、リモート SQL Server データベースにアクセスするように変更することはできません。

スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へのアップグレード

- ステップ 1** すべての Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを停止します。
- Windows の [Services] コントロール パネルで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックします。
 - [Stop] を選択します。
- ステップ 2** Template、Html、Images、Jslib、および Scripts ディレクトリ内のカスタマイズされたすべての Web Conferencing ページと、すべてのイメージをバックアップします（ある場合）。
- 以前のバージョンの Web Conferencing がインストールされているディレクトリを見つけます。通常、このディレクトリは *drive:\Latitude\mpweb* です。
 - mpweb_backup** という新しいディレクトリを作成します（たとえば、*drive:\Latitude\mpweb_backup*）。
 - Template、Html、Images、Jslib、** および **Scripts** ディレクトリとすべてのイメージを、*drive:\Latitude\mpweb* から *drive:\Latitude\mpweb_backup* にコピーします。
- ステップ 3** セットアップ プログラムを実行し、[Remove] オプションを選択します。
- ステップ 4** コンピュータをリブートします。
- ステップ 5** AppName 値を変更します。
- drive:\Program Files\InstallShield Installation Information* に移動します。複数のフォルダが表示されます。
 - フォルダを開きます。
 - フォルダの **setup.ini** ファイルをメモ帳で開き、**AppName** の値を探します。

- d. AppName の値が Cisco MeetingPlace Web Conferencing 以外である場合は、メモ帳を閉じてステップ 5e. に進みます。このフォルダでは何も操作しないでください。
AppName の値が Cisco MeetingPlace Web Conferencing の場合は、メモ帳を閉じ、このフォルダ全体を削除して、[ステップ 6](#) にスキップします。
- e. InstallShield Installation Information ディレクトリ内の各フォルダに対してステップ 5b. からステップ 5d. を繰り返します。

ステップ 6 Microsoft SQL Desktop Engine (MSDE) がインストールされている場合は、削除します。

- a. Windows のコントロール パネルを開いて、[Add/Remove Programs] を選択します。
- b. [Microsoft SQL Desktop Engine (MSDE)] をクリックして、[Change/Remove] をクリックします。

ステップ 7 Web Conferencing セットアップ プログラムを実行し、「[Web Conferencing のインストール](#)」で説明されているインストール プロセスを実行します。

- [Database Location] に、[Existing Remote Server] を選択します。
- ユーザ名とパスワードの両方を、共有するデータベースに対応した既存のリモート SQL Server と同じものにアップデートします。
- [Database Server] に、共有する既存のリモート SQL Server データベースのホスト名または固定 IP アドレスを入力します。

同一データベースを共有する Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード

次の環境では、Web サーバは同一のデータベースを共有します。

- Web サーバが Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing ロード バランシング クラスタの一部として展開されている。
- Web 会議サーバが WebConnect 構成の一部として展開されている。

内部クラスタと外部クラスタを同時にアップグレードすることは可能ですが、一方のクラスタのアップグレードを完了してからもう一方のクラスタに進むようにして、エラーの可能性や混乱を低減させることをお勧めします。

始める前に

- 「[Web Conferencing のインストール](#)」の章を用意して、設定時に参照できるようにしておきます。
- [P.5-3 の「Release 5.4 でのロード バランシング」](#)をお読みください。
- [P.5-6 の「Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備」](#)を完了します。

制約事項

内部クラスタ、外部クラスタ、または WebConnect 構成内のすべての Web サーバを同一のリリースおよびビルド番号にアップグレードする必要があります。

同一データベースを共有する Web サーバでの Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード

ステップ 1 データベースを共有する Web サーバのグループで、1 つを除くすべての Web サーバをシャットダウンします。

- ステップ 2** Template、Html、Images、Jslib、および Scripts ディレクトリ内のカスタマイズされたすべての Web Conferencing ページと、すべてのイメージをバックアップします（ある場合）。
- 以前のバージョンの Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing がインストールされているディレクトリを見つけます。通常、このディレクトリは `drive:\Latitude\mpweb` です。
 - `mpweb_backup` という新しいディレクトリを作成します（たとえば、`drive:\Latitude\mpweb_backup`）。
 - Template、Html、Images、Jslib、** および **Scripts** ディレクトリとすべてのイメージを、`drive:\Latitude\mpweb` から `drive:\Latitude\mpweb_backup` にコピーします。
- ステップ 3** Web Conferencing セットアップ プログラムを実行してアップグレードします。
- インストールおよび構成の設定は、ほとんどが以前の Web Conferencing のインストールから維持されます。
- ステップ 4** サーバを再起動します。
- ステップ 5** 展開するサーバのタイプに基づいて Web Conferencing の設定を確認します。このタイプとは、内部クラスタの一部、外部クラスタの一部、または WebConnect 構成の一部のいずれかです。
- ステップ 6** Web Conferencing 機能を確認します。
- ステップ 7** Web サーバを動作状態のままにします。
- ステップ 8** 2 番目の Web サーバに対して、[ステップ 2](#) から [ステップ 7](#) を繰り返します。
- ステップ 9** このクラスタ内の残りのすべて Web サーバについて、[ステップ 2](#) から [ステップ 7](#) を繰り返して、すべてのサーバを同一のリリースにアップグレードします。
-

Web Conferencing、SQL Server、または MSDE ソフトウェアのアンインストール

この項では、次の情報について説明します。

- [Web Conferencing ソフトウェアのアンインストール \(P.5-11\)](#)
- [SQL Server または MSDE ソフトウェアの削除 \(P.5-11\)](#)

Web Conferencing ソフトウェアのアンインストール

Web Conferencing ソフトウェアのアンインストール

-
- ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Settings] > [Control Panel] > [Add/Remove Programs] を選択します。
 - ステップ 2** Windows の [Add/Remove Programs] ウィンドウで、[Cisco MeetingPlace Web Conferencing] をクリックします。
 - ステップ 3** [Change/Remove] をクリックします。
 - ステップ 4** Web Conferencing とそのすべてのコンポーネントを完全に削除するというプロンプトが表示されたら、[Yes] をクリックします。
 - ステップ 5** Windows エクスプローラで、変換された音声ファイルの格納場所（たとえば、*drive:\wma_files*）を手動で削除します。
-

SQL Server または MSDE ソフトウェアの削除

今後 SQL Server または MSDE を他のアプリケーションで使用しない場合は、手動でアンインストールできます。

制約事項

SQL Server または MSDE をアンインストールしても、MPWEB SQL データベース ファイルは削除されません。Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing に関連したデータベース ファイルをすべて完全に削除するには、ファイルを手動で探して削除する必要があります。

SQL Server または MSDE ソフトウェアの削除

-
- ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] を選択します。
 - ステップ 2** Microsoft SQL Server サービスを停止します。
 - ステップ 3** [Start] メニューから、[Settings] > [Control Panel] > [Add/Remove Programs] を選択して、対象になるソフトウェア (Microsoft SQL Server または Microsoft SQL Server Desktop Engine) を選択します。
 - ステップ 4** [Remove] をクリックします。

ステップ 5 サーバを再起動します。



Web Conferencing インストールの トラブルシューティング

この章では、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストール時に発生する可能性のある一般的な問題のトラブルシューティング方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [インストールに関する問題 \(P.6-2\)](#)
- [サーバ接続に関する問題 \(P.6-4\)](#)

インストールに関する問題

この項では、次の情報について説明します。

- [最初の作業 \(P.6-2\)](#)
- [Cisco MCS のオペレーティング システム バージョンが要件を満たすことの確認 \(P.6-2\)](#)
- [追加のサポートを受ける方法 \(P.6-3\)](#)

最初の作業

Web サーバが正常に動作しない場合は、次のトラブルシューティング作業を試します。

1. Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サービスを再起動します。
 - a. Windows の [Start] メニューで、[Settings] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] を選択します。
 - b. [Cisco MeetingPlace Web Conferencing] を右クリックして、[Start] を選択します。
 - c. 他のゲートウェイ サービスを停止していた場合は、それらのサービスを右クリックし、[Start] を選択して再起動します。
 - d. [Services] コントロール パネルを閉じます。
2. それでもサーバが正常に動作しない場合は、サーバをリブートします。
3. それでもサーバが正常に動作しない場合は、Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing のインストーラを修復モードで再び実行します。
4. それでもサーバが正常に動作しない場合は、次のインストール ログを収集し、シスコのサポート担当者に問い合わせます。
 - mpwebstp.log
 - mpwebstp-jvm.log
 - mpwebstp-sql.log
 - mpwebstp-sqlsp3.log

Web Conferencing のインストール ログは C:\Winnt ディレクトリにあります。

Cisco MCS のオペレーティング システム バージョンが要件を満たすことの確認

Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing をインストールするには、必要なバージョンのオペレーティング システムが Cisco MCS にインストールされている必要があります。次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

Cisco MCS のオペレーティング システムのバージョンが要件を満たすことを確認する

-
- ステップ 1** Windows の [Start] メニューで、[Settings] を選択して、[Control Panel] をダブルクリックします。
- ステップ 2** [Help] メニューで、[About Windows] を選択してオペレーティング システムのバージョンを確認します。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。
-

追加のサポートを受ける方法

Windows サービスに問題がある場合、または Web サーバが接続を失った場合は、できる限り速やかに `drive:\Program Files\Cisco Systems\MPWeb\datasvc` ディレクトリに移動して `Dcdiags.bat` を実行し、サーバ ログを生成します。診断情報はすべて、`Cisco Systems\MPWeb\Diagnostics` ディレクトリに格納されます。

このファイルを圧縮し、シスコのサポート担当者に送信して、サポートを受けてください。

サーバ接続に関する問題

Web サーバは、[Web Server] 管理ページに設定されているホスト名を使用して、自分自体に接続できる必要があります。このホスト名は、エンドユーザがこの Web サーバに接続するときにも使用されます。

接続の問題は、多くの場合、ファイアウォール関連の設定が原因で発生します。

この項では、次の情報について説明します。

- [HTTP 接続に関する問題の解決 \(P.6-4\)](#)
- [HTTPS 接続に関する問題の解決 \(P.6-4\)](#)

HTTP 接続に関する問題の解決

次の手順では、例として *hostname.domain.com* を使用します。*hostname.domain.com* は、使用する Web サーバの実際の FQDN に置き換えてください。

HTTP 接続に関する問題の解決

- ステップ 1** Web サーバから、Web ブラウザを使用して *http://hostname.domain.com* に接続します。
- ステップ 2** エラーメッセージが表示される場合は、C:\WINNT\System32\drivers\etc\hosts ファイルに次の行を追加します。
- 127.0.0.1 hostname.domain.com**
- ステップ 3** *http://hostname.domain.com* に再び接続します。
-

HTTPS 接続に関する問題の解決

Web サーバで HTTPS トラフィックしか使用できない場合は、この項の手順を実行します。

次の手順では、例として *hostname.domain.com* を使用します。*hostname.domain.com* は、使用する Web サーバの実際の FQDN に置き換えてください。

HTTPS 接続に関する問題の解決

- ステップ 1** Web サーバから、Web ブラウザを使用して *https://hostname.domain.com* に接続します。
- ステップ 2** セキュリティ警告のダイアログボックスが表示されたら、このダイアログボックスが表示されないように SSL を設定します。詳細については、Microsoft の Web サイトで Microsoft Knowledge Base Article の 813618 および 257873 を参照してください。
-



Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration のインストールまたはアップグレード

この付録では、Jabber サーバで Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration をインストールまたはアップグレードして、ユーザが Jabber Messenger クライアントから Cisco Unified MeetingPlace 会議を開始できるようにする方法を説明します。

この付録には、次の項があります。

- [Jabber Integration インストーラについて \(P.A-2 \)](#)
- [コマンドライン インストーラを使用した Jabber Integration のインストール \(P.A-2 \)](#)
- [X-Windows GUI インストーラを使用した Jabber Integration のインストール \(P.A-3 \)](#)
- [Jabber Integration の設定 \(P.A-3 \)](#)
- [Jabber Integration のアップグレードまたは再インストール \(P.A-4 \)](#)
- [Jabber Integration のアンインストール \(P.A-5 \)](#)

Jabber Integration インストーラについて

Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration を Jabber サーバにインストールするには、コマンドライン インターフェイス（コンソールなど） または X-Windows のグラフィカル ユーザ インターフェイス（GUI）を使用します。どちらの場合も同じインストーラが使用されます。インストーラの起動に使用するインターフェイスによって、コマンドライン インターフェイスまたは GUI インターフェイスのいずれを使用するかが決定されます。

Jabber サーバのルート アカウントでインストーラを実行する必要があります。構成には、Release 5.4 が実行されている Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing サーバを組み込む必要があります。

Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration をインストールする前に、Jabber サーバが、次の URL の『*System Requirements for Cisco Unified MeetingPlace Release 5.4*』の「Integration Requirements: Jabber Server」の項にリストされている要件を満たすことを確認してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/prod_installation_guides_list.html

コマンドライン インストーラを使用した Jabber Integration のインストール

コマンドライン インストーラを使用した Jabber Integration のインストール

- ステップ 1** Jabber サーバにルートとしてログインします。
 - ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration CD には、install_jabber_5_x_x_x.bin と呼ばれるバイナリ ファイルが含まれています。ここで、5_x_x_x はバージョン番号です。Jabber サーバの CD/DVD-ROM ドライブに CD を挿入するか、ファイルを別の場所からサーバにコピーします。
 - ステップ 3** コマンドラインで、バイナリ インストール ファイルへのパスを入力して、Enter キーを押します。
 - ステップ 4** Enter キーを押して、Jabber Integration のインストールを確認します。
 - ステップ 5** Jabber Integration のインストール先のパスを選択します。このパスは、Jabber アプリケーションがインストールされているパスと一致する必要があります。Enter キーを押してデフォルトのパスを受け入れるか、パスを入力して Enter キーを押します。
 - ステップ 6** インストール情報を確認します。インストールを続行するには、Enter キーを押します。
-

X-Windows GUI インストーラを使用した Jabber Integration のインストール

X-Windows GUI インストーラを使用した Jabber Integration のインストール

-
- ステップ 1** Jabber サーバにルートとしてログインします。
- ステップ 2** Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration CD には、install_jabber_5_x_x_x.bin と呼ばれるバイナリファイルが含まれています。ここで、5_x_x_x はバージョン番号です。Jabber サーバの CD/DVD-ROM ドライブに CD を挿入するか、ファイルを別の場所からサーバにコピーします。
- ステップ 3** コマンド ウィンドウで、バイナリ インストール ファイルへのパスを入力して、Enter キーを押します。
- ステップ 4** [Next] をクリックして、Jabber Integration のインストールを確認します。
- ステップ 5** Jabber Integration のインストール先のパスを選択します。このパスは、Jabber アプリケーションがインストールされているパスと一致する必要があります。[Next] をクリックしてデフォルトのパスを受け入れるか、パスを入力して [Next] をクリックします。
- ステップ 6** インストール情報を確認します。インストールを続行するには、[Next] をクリックします。インストールをキャンセルするには、[Cancel] をクリックします。
-

Jabber Integration の設定

インストール後に、Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration を設定するには、次の URL の『Cisco Unified MeetingPlace Web Conferencing コンフィギュレーション ガイド』の付録「Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration の設定およびトラブルシューティング」を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/ps5664/ps5669/products_installation_and_configuration_guides_list.html

Jabber Integration のアップグレードまたは再インストール

Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration をアップグレードまたは再インストールするには、この項の作業を行います。これを行うのは、Jabber Integration の設定がすでに完了している場合だけです。前の項「[Jabber Integration の設定](#)」を参照してください。

1. Cisco External Command Interface コンポーネントを停止します。[P.A-4 の「Cisco External Command Interface の停止](#)」を参照してください。
2. [P.A-2 の「コマンドライン インストーラを使用した Jabber Integration のインストール](#)」、または [P.A-3 の「X-Windows GUI インストーラを使用した Jabber Integration のインストール](#)」を使用してインストーラを実行します。

Cisco External Command Interface の停止

-
- ステップ 1** Jabber XCP Controller Web インターフェイスにログオンします。このインターフェイスへのアクセス方法については、Jabber のマニュアルを参照してください。
- ステップ 2** XCP Controller のホーム ページの [Components] セクションから Cisco External Command Interface コンポーネントを見つけます。
- ステップ 3** [Actions] カラムの [Stop] をクリックします。
-

Jabber Integration のアンインストール

この項では、3 つの手順を説明します。Cisco Unified MeetingPlace Jabber Integration をアンインストールするには、説明されている順序で手順を実行します。

手順を実行するのは、Jabber Integration の設定がすでに完了している場合だけです(P.A-3 の「[Jabber Integration の設定](#)」を参照してください)。

Cisco External Command Interface の停止および削除

-
- ステップ 1** Jabber XCP Controller Web インターフェイスにログオンします。このインターフェイスへのアクセス方法については、Jabber のマニュアルを参照してください。
 - ステップ 2** XCP Controller のホーム ページの [Components] セクションから Cisco External Command Interface コンポーネントを見つけます。
 - ステップ 3** [Actions] カラムの [Stop] をクリックします。
 - ステップ 4** [Remove] カラムの [Remove] をクリックします。
-

Jabber Integration ファイルの削除

-
- ステップ 1** Jabber サーバのコマンド ウィンドウから、JAR ファイル ディレクトリ、つまりインストーラ ソース ファイルが格納されているディレクトリの `./lib/cisco` サブディレクトリを見つけます(たとえば、`/opt/jabber/lib/cisco`)。
 - ステップ 2** `rm -rf <ステップ 1 の JAR ファイル ディレクトリのパス>` と入力して Enter キーを押します。
 - ステップ 3** Cisco JIG 設定ディレクトリ、つまりインストーラ ソース ファイルが格納されているディレクトリの `./schemas/jig/config/cisco` サブディレクトリを見つけます(たとえば、`/opt/jabber/schemas/jig/config/cisco`)。
 - ステップ 4** `rm -rf <ステップ 3 の Cisco JIG 設定ファイルのパス>` と入力して Enter キーを押します。
 - ステップ 5** Cisco XSD 設定ディレクトリ、つまりインストーラ ソース ファイルが格納されているディレクトリの `./schemas/xsd/config/cisco` サブディレクトリを見つけます(たとえば、`/opt/jabber/schemas/xsd/config/cisco`)。
 - ステップ 6** `rm -rf <ステップ 5 の Cisco XSD 設定ディレクトリのパス>` と入力して Enter キーを押します。
-

Jabber.Jig ファイルからコンポーネント参照を削除

- ステップ 1** Jabber サーバのコマンド ウィンドウから、jabber.jig ファイルを見つけます（たとえば、`/opt/jabber/schemas/jig/config/jabber/jabber.jig`）。
- ステップ 2** テキスト エディタで jabber.jig ファイルを開きます。
- ステップ 3** 次のテキスト行を見つけて削除します。
`<xi:include xi:href="${JABBER_HOME}/schemas/jig/config/cisco/cisco.jig" level="base"/>`
- ステップ 4** jabber.jig を保存して閉じます。
-



A		HTTPS	
Audio Server		接続、Web サーバのテスト	2-15
インストール要件	2-5	接続に関する問題の解決	6-4
ホスト名	2-8		
C		I	
Cisco MCS		IP アドレス、Web サーバ	2-9
オペレーティングシステム、インストール	2-10		
オペレーティングシステムのバージョン、確認	6-2	J	
プロダクトキー	2-10	Jabber Integration	
Cisco MeetingPlace Agent Service、～について	1-4	X-Windows GUI インストーラ	A-3
Cisco Unified MeetingPlace について	1-1	アップグレード	A-4
		アンインストール	A-5
		インストーラ、～について	A-2
		インストール	A-1
		コマンドライン インストーラ	A-2
		再インストール	A-4
		設定	A-3
D		Jabber Integration の再インストール	A-4
DMZ、～について	3-2	Java Runtime Environment、～について	2-4
非武装地帯 DMZ を参照			
		M	
G		MPWEB データベース、バックアップ	5-4
Gateway System Integrity Manager (SIM) インストール	2-12	MSDE	
GUIDS		自動インストールの条件	2-3
内部 Web サーバから外部 Web サーバへのコピー	3-9	インストール オプション	2-3
内部 Web サーバから外部 Web サーバへのコピー	4-18	ソフトウェアの削除	5-11
		データベース サイズ	2-2
		データベースのスケラビリティ	2-2
		統合、～について	2-2
H		N	
HTTP		NetMeeting、共通のエンドポイント	1-3
接続、Web サーバのテスト	2-15		
接続に関する問題の解決	6-4		

S

SMA

- ～について 3-2
- ビデオ会議、考慮事項 4-8

Segmented Meeting Access *SMA* を参照

SMA-1S 構成

- Web Conferencing のインストール 3-6
- 情報の収集 3-5
- 図 3-3
- ～について 3-2

SMA-2S 構成

- 内部サーバへの Web Conferencing のインストール 3-8
- SSL およびセグメント化された DNS を使用した 3-4
- 外部サーバへの Web Conferencing のインストール 3-10
- 情報の収集 3-7
- 図 3-4
- ～について 3-3

SQL Server

- ユーザへのインストールおよび処理続行権限の割り当て 2-6
- ユーザへのサーバおよびデータベース役割の割り当て 2-7
- インストール オプション 2-3
- 最小権限アカウント、作成 2-5
- 自動インストールの条件 2-3
- ソフトウェアの削除 5-11
- 統合、～について 2-2
- 場所 2-9
- ビデオ会議の考慮事項 4-9
- ホスト名 2-9
- ユーザ名 2-9
- リモートサーバへのインストール、～について 2-5

SSL

- HTTPS 接続に関する問題の解決 6-4
- セグメント化された DNS を使用した SMA-2S 構成 3-4

Secure Socket Layer *SSL* を参照

T

Terminal Services、インストールの制約事項 2-11

W

Web Conferencing

- インストールされるコンポーネント 2-11
- インストール、～について 2-2
- ソフトウェア、アンインストール 5-11
- ソフトウェア、インストール 2-11
- ～について 1-2

- Cisco MeetingPlace Agent Service 1-4
- 会議の信頼性 1-4
- 共通のエンドポイント 1-3
- コンポーネント、概要 1-2
- サーバベース 1-4
- 使用条件 1-7
- 接続手順 1-5
- ネットワーク セキュリティ 1-4
- ユーザの要求の処理、図 1-6
- 利点 1-3

Web Conferencing ソフトウェア アップグレードの準備 5-6

Web サーバ

- Web 会議負荷の表示 (ロード バランシング) 4-26
- 内部から外部への GUIDS のコピー (SMA-2S) 3-9
- 内部、Web Conferencing のインストール (SMA-2S) 3-8
- HTTP 接続でのテスト 2-15
- HTTPS 接続でのテスト 2-15
- 外部
 - 最初のインストール (ロード バランシング) 4-18
 - 最初のサービスの設定 (ロード バランシング) 4-20
 - 追加のインストール (ロード バランシング) 4-21
 - Web Conferencing のインストール (SMA-2S) 3-10
- スタンドアロンのアップグレード 5-7
- スタンドアロン、共有データベース構成へのアップグレード 5-8
- 接続のトラブルシューティング 6-4
- 定義 2-14
- 同一のデータベースを共有する、アップグレード 5-9
- 場所 2-8
- ホスト名または静的 IP アドレス 2-9
- Web サーバの定義 2-14

- あ
- アイコン、Cisco Unified MeetingPlace 2-12
 - アカウント、最小権限 SQL、作成 2-5
 - アップグレード
 - Jabber Integration A-4
 - スタンドアロン Web サーバ 5-7
 - スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へ 5-8
 - 制約事項 5-2
 - 同一のデータベースを共有する Web サーバ 5-9
 - 認証の考慮事項 5-3
 - ～の準備 5-6
 - ロード バランシングの考慮事項 5-3
 - アップグレードのための認証の考慮事項 5-3
 - アプリケーション ファイル、Web Conferencing のバックアップ 5-5
 - アンインストール
 - Jabber Integration A-5
 - SQL Server または MSDE ソフトウェア 5-11
 - Web Conferencing ソフトウェア 5-11
- い
- インストール
 - Cisco MCS へのオペレーティングシステム 2-10
 - MSDE、自動の条件 2-3
 - リモート サーバへの SQL Server、～について 2-5
 - 最初の外部 Web サーバ (ロード バランシング) 4-18
 - 追加の内部 Web サーバ (ロード バランシング) 4-15
 - Audio Server 要件 2-5
 - Jabber Integration A-1
 - SQL Server、自動の条件 2-3
 - Terminal Services の制約事項 2-11
 - Web Conferencing
 - SMA-1S 構成での 3-6
 - 外部サーバへの (SMA-2S) ソフトウェア 3-10 2-11
 - 内部サーバへの (SMA-2S) 3-8
 - 値の収集 2-8
 - キー、～について 2-12
 - 最初の内部 Web サーバ (ロード バランシング) 4-13
 - 作業 2-10
 - 追加の外部 Web サーバ (ロード バランシング) 4-21
 - テスト 2-14
 - トラブルシューティング 6-2
 - インストール前の作業 2-5
- え
- エンドポイント、共通 1-3
- か
- 会議
 - アドホック、設定 (ロード バランシング) 4-26
 - 外部、リダイレクトの設定 (ロード バランシング) 4-24
 - 信頼性、～について 1-4
 - 会議コンソール
 - 共通のエンドポイント 1-3
 - 接続、テスト 2-16
 - 外部 Web サーバ
 - ～への GUIDS のコピー (ロード バランシング) 4-18
 - 追加のインストール (ロード バランシング) 4-21
 - 最初のサービスの設定 4-20
 - 外部クラスタ
 - 共通格納場所 (ロード バランシング) 4-11
 - 共通管理アカウント (ロード バランシング) 4-11
 - 準備 (ロード バランシング) 4-11
 - ～について 4-3
 - 確認、Cisco MCS オペレーティングシステムのバージョン 6-2
 - 完全修飾ドメイン名、入力 2-14
- き
- 共通格納場所
 - 外部クラスタ (ロード バランシング) 4-11
 - 作成 (ロード バランシング) 4-12
 - 内部クラスタ (ロード バランシング) 4-11
 - 共通管理アカウント
 - 外部クラスタ (ロード バランシング) 4-11
 - 内部クラスタ 4-10

- く
- クラスタ
- 外部
 - 共通格納場所 (ロード バランシング) 4-11
 - 共通管理アカウント (ロード バランシング) 4-11
 - 準備 (ロード バランシング) 4-11
 - ~ について 4-3
 - 内部
 - 共通格納場所 (ロード バランシング) 4-11
 - 共通管理アカウント (ロード バランシング) 4-10
 - 準備 (ロード バランシング) 4-10
 - ~ について 4-3
- こ
- コピー
- 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS 4-18
 - 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS (SMA-2S) 3-9
- さ
- サーバベースの会議、~ について 1-4
- 作業
- Web Conferencing ソフトウェアのアップグレード 5-6
 - アップグレード前のバックアップ 5-4
 - インストール 2-10
 - インストール システムのテスト 2-14
 - インストール前 2-5
 - ロード バランシングのインストール 4-13
 - ロード バランシングのインストール後 4-26
 - ロード バランシングのインストール前 4-10
- 削除
- SQL Server または MSDE ソフトウェア 5-11
 - Web Conferencing ソフトウェア 5-11
- 作成
- 共通格納場所 (ロード バランシング) 4-12
 - 最小権限 SQL アカウント 2-5
- し
- 使用条件、Web Conferencing 1-7
- せ
- 制約事項
- SQL Server または MSDE ソフトウェアの削除 5-11
 - アップグレード
 - Web Conferencing 5-2
 - スタンドアロン Web サーバから共有データベース構成へ 5-8
 - 同一データベースを共有する Web サーバ 5-9
 - アドホック ビデオ会議の設定 4-26
 - 外部サーバへの Web Conferencing のインストール 3-10
 - 追加の内部 Web サーバのインストール (ロード バランシング) 4-15
 - 内部クラスタの準備 (ロード バランシング) 4-10
 - 内部サーバへの Web Conferencing のインストール 3-8
 - ロード バランシング構成での Web Conferencing のインストール 4-2
- セキュリティ
- SMA-2S 構成 3-3
 - ネットワーク、~ について 1-4
- 接続
- HTTP の問題、解決 6-4
 - HTTPS に関する問題、解決 6-4
 - トンネル、~ について 1-5
- 設定
- 最初の外部 Web サーバに対するサービス (ロード バランシング) 4-20
 - 最初の内部 Web サーバに対するサービス (ロード バランシング) 4-14
 - アドホック ビデオ会議 (ロード バランシング) 4-26
 - 外部会議のリダイレクト (ロード バランシング) 4-24
- そ
- ソフトウェア、インストール 2-11
- て
- データベース
- 外部会議、設定 (ロード バランシング)

- MPWEB および MPWEB-Slave のバックアップ 5-4
 - サイズ、MSDE 2-2
 - スケーラビリティ、MSDE 2-2
- テスト
 - HTTP 接続での Web サーバ 2-15
 - HTTPS 接続での Web サーバ 2-15
 - 会議コンソールの接続 2-16
- と
- 動作
 - ビデオ対応システムでのロード バランシング デフォルト 4-8
 - フェールオーバー 4-7
 - ロード バランシング 4-5
- トラブルシューティング
 - Cisco MCS オペレーティング システムのバージョンの確認 6-2
 - インストールに関する問題 6-2
 - エラー 21776 2-7
 - サーバ接続に関する問題 6-4
- トンネル接続、～について 1-5
- な
- 内部 Web サーバ
 - ～からの GUIDS のコピー (ロード バランシング) 4-18
 - 最初、サービスの設定 (ロード バランシング) 4-14
 - 追加、インストール(ロード バランシング) 4-15
 - 最初、インストール(ロード バランシング) 4-13
- 内部クラスタ
 - 共通格納場所 (ロード バランシング) 4-11
 - 共通管理アカウント (ロード バランシング) 4-10
 - 準備 (ロード バランシング) 4-10
 - ～について 4-3
- ね
- ネットワーク セキュリティ、～について 1-4
- は
- 場所
 - SQL Server 2-9
 - Web サーバ 2-8
- バックアップ
 - Cisco Unified MeetingPlace レジストリ情報 5-5
 - MPWEB および MPWEB-Slave データベース 5-4
 - Web Conferencing アプリケーション ファイル 5-5
- ひ
- ビデオ会議
 - SMA の考慮事項 4-8
 - SQL Server の考慮事項 4-9
 - ユーザの考慮事項 4-9
 - ロード バランシング、デフォルトの動作 4-8
 - ロード バランシングの考慮事項 4-8
- ふ
- プロダクト キー、Cisco MCS 2-10
- ほ
- ホスト名
 - Audio Server 2-8
 - SQL Server 2-9
 - Web サーバ 2-9
- や
- 役割、SQL Server ユーザへのサーバおよびデータベースの割り当て 2-7
- ゆ
- ユーザ、ビデオ会議の考慮事項 4-9
- ユーザ名、SQL Server 2-9
- り
- リダイレクション
 - 外部会議、設定 (ロード バランシング) 4-24

- 図 4-6
- れ
- レジストリ、Cisco Unified MeetingPlace 情報のバックアップ 5-5
- ろ
- ロード バランシング
 - Web Conferencing と標準の Web サーバとの比較 4-2
 - Web Conferencing クラスタ、~ について 4-3
 - アップグレードのための考慮事項 5-3
 - アルゴリズム 4-6
 - インストール
 - 最初の外部 Web サーバ 4-18
 - 最初の内部 Web サーバ 4-13
 - 追加の外部 Web サーバ 4-21
 - 追加の内部 Web サーバ 4-15
 - インストール後の作業 4-26
 - インストールの作業 4-13
 - インストール前の作業 4-10
 - 外部クラスタの準備 4-11
 - 共通格納場所の作成 4-12
 - 堅固なシステムのための推奨事項 4-7
 - 混合クラスタおよび単一構成、図 4-4
 - 混合クラスタ構成、図 4-4
 - サーバにおける Web 会議負荷の表示 4-26
 - 制約事項 4-2
 - 設定
 - アドホック ビデオ会議 4-26
 - 最初の外部 Web サーバに対するサービス 4-20
 - 最初の内部 Web サーバに対するサービス 4-14
 - 単一クラスタ構成、図 4-3
 - 動作 4-5
 - 内部 Web サーバから外部 Web サーバへの GUIDS のコピー 4-18
 - 内部クラスタの準備 4-10
 - ~ について 4-2
 - ビデオ対応システム 4-8
 - フェールオーバー 4-7
 - 無効化 4-27
 - リダイレクション、図 4-6
 - 設定
 - 外部会議のリダイレクト 4-24
 - ロード バランシングのアルゴリズム 4-6
 - ロード バランシングの無効化 4-27
- わ
- 割り当て
 - SQL Server ユーザへのインストールおよび処理続行権限 2-6
 - SQL Server ユーザへのサーバおよびデータベース役割 2-7